## **2020** 年度 学修要項(シラバス Syllabus)

ICM 国際メディカル専門学校 鍼灸学科(昼間部)

			[		終時	間数			学生	王別		実務経験のあよる授業科目	る教員等に
	<b>利</b>	4目	単位数	講義		実技·実習	計	1年	2年	3年	計	2020年度	単位数
		心理学	2				30		30		30	- 100	
		マーケティング	2				30		30		30		
++		英語	2				30		30		30		
基礎	科学的思考の基盤		2	30			30	30			30		
分	人間と生活(14)	スタディスキルズ	1	15			15	15			15		
野		コミュニケーション技法	2				30	30			30		
		情報処理 I	2	30			30	30			30		
		情報処理Ⅱ	1	15			15	15			15		
		計		210	0	0	210	120	90	0	210		0
		解剖学I	3	45			45	45			45		
		解剖学 II	3	45			45	45			45		
	1 /4 ~ 1# ># 1 144 /4	解剖学Ⅲ	4	60			60	60			60		
	人体の構造と機能(12)		4	60			60	60			60		
	(12)	生理学Ⅱ 解剖生理Ⅰ	3	60 45			60 45	60	45		60 45		
		解剖生理 II	3				45		45		45		
専		運動学	2	30			30		30		30		
門基		病理学概論	2	30			30		30		30		
<b>登</b>		臨床医学総論	4	60			60		60		60		
分	疾病の成り立ちそ	臨床医学各論 I	3	45			45		45		45		
野	疾病の成り立らて の予防及び回復の		4	60			60		70	60	60		
	促進(12)	臨床医学各論Ⅲ	4	60			60			60	60		
		リハビリテーション医学	4	60			60		60		60		
		公衆衛生学	2	30			30	30			30		
	保健医療福祉と	経営と法律	2	30			30			30	30		
	はり及びきゅうの理念(3)	医療概論	1	15			15	15			15		
		計	52	780	0	0	780	315	315	150	780		0
	甘林はリキュミヴ	経絡経穴概論	6	90			90	90			90	0	6
	基礎はりきゅう学(9)	伝統医学概論 I	4	60			60	60			60	0	4
		伝統医学概論 Ⅱ	2	30			30		30		30	0	2
		病態生理	1		30		30			30	30	0	1
		適応と鑑別	2	30			30			30	30	0	2
	臨床はりきゅう学	鍼灸理論I	1	15			15	15			15	0	1
	(13)	鍼灸理論Ⅱ	3	45			45		45		45	0	3
		体表観察	1			30	30		30		30	0	1
		症例検討 に然医学医療	1	- 00	30		30			30	30	0	1
	せんはいもいこめ	伝統医学臨床論	4	60			60		15	60	60 15	0	4
	社会はりきゅう学 (2)	文献閲読 鍼灸業界教養	1	15 15			15 15	15	10		15	0	1
	(2)	郵火未介収食 計	27	360	60	30	450	180	120	150	450	U	27
		伝統医学史	1		00	30	15	100	120	150			
		就職実務	1				15		15	13	15		
		医学補完 [	2	30			30	30	10		30		
		医学補完 II	1	15			15	- 55	15		15		
	総合領域(10)	医学補完Ⅲ	1	15			15		10	15	15		
専	, , ,	対策授業Ⅰ	4	60			60			60	60		
門八		対策授業Ⅱ	5				75			75	75		
分野		総合実技	1			30	30			30	30		
7.1		総合医学演習	1		30		30			30	30		
		計	17	225	30	30	285	30	30	225	285		0
		鍼灸実技 I	5			150	150	150			150	0	5
		鍼灸実技Ⅱ	5			150	150		150		150	0	5
		経絡経穴実技 I	1			30	30	30			30	0	1
		経絡経穴実技Ⅱ	1			30	30		30		30	0	1
		手技実技 [	1			30	30	30			30	0	1
		手技実技Ⅱ	1			30	30		30		30	0	1
	実技(15)及び臨床	美容スポーツ各種鍼灸	2			60	60			60	60	0	2
	実習(4)	現代鍼灸検査実技	1			30	30		30		30	0	1
		伝統鍼灸診察実技	1			30	30		30	00	30	0	1
		現代鍼灸実技	3			90	90			90 90	90	0	3
		伝統鍼灸実技 臨床実習前実技	3 1			90 30	90		30	90	30	0	<u>3</u>
		臨床基礎実習 I	1			45	45	45	30		45	0	1
		<u> </u>	1			45	45	40	45		45	0	1
		二	2			90	90		40	90	90	0	2
		<u> </u>		_		930	930	255	345	330	930		29
	単位数■	<u>□</u> 時間数合計		1,575	90		2,655	900	900		2,655	27	56
	早世数"	지미双口미	139	1,0/0	90	990	2,000	900	900	იაა	2,000	Z1	90

科目名		心理学				
担当教員	中島 郁子	実務経験の有無及び経歴				
対象学年	2年	開講学期	後期			
単位数	講義 2単位	時間数	30時間			
科目の概要	1. 面接の意義を理解する 2. 身体症状について臨床心理学 3. 面接についての知識を身につい 4. 事例検討について理解する		つける			
科目の目標	臨床心理面接の基礎を学び、患者さんの話の聞き方、見立ての立て方、相談に患者さんを理解するために必要な面接の行い方を身につけることを目標とする。					
学習の到達目標		2. 身体症状について臨床心理学的に必要な知識を身につける 3. 面接についての知識を身につける				
学習方法・学習上の注意	テキストに沿って、発表形式で授業をすすめる。 各自、担当箇所(初回の授業時に決定)については、特によく予習し準備すること。					
関連科目						
持参物	テキスト、ノート等					
講義計画	講義内容					
1	オリエンテーション					
2	方法としての面接					
3	面接をどう始めるか					
4	「わかる」ということ					
5		身体症状と症例				
6	不登校児童の臨床事例					
7	面接の進め方					
8	「ストーリー」を読む					
9		見立て				
10		家族の問題				
11		劇としての面接				
12		面接とケース・スタディ				
13		子どもの臨床事例				
14	身体症状を訴える女性の臨床事例					
15	試験					
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・ D(60点未満)とする。					
使用テキスト	・新訂 方法としての面接 臨床家のために 土居健郎著 医学書院					
参考文献						

科目名		マーケティング					
担当教員	須佐 修一	実務経験の有無及び経歴					
対象学年	2年	開講学期	前期				
単位数	講義 2単位	時間数	30時間				
科目の概要	治療院を開業・運営するために、基礎 金運用・法務等々を学ぶ。 卒業後すく						
科目の目標	マーケティング・リサーチ、ブランド戦いび、基礎的な経理用語の習得、個人事することが出来る。						
学習の到達目標	マーケティングの必要性を学習し、ビジング、併せて鍼灸院経営の基礎を学		取り組むために必要な基礎知識を				
学習方法・学習上の注意	テキストを中心に、みんなが良く知って 授業の中で、リアルタイムで発表をフ	テキストを中心に、みんなが良く知っている事例をマーケティング視点で学習する。 授業の中で、リアルタイムで発表をフィードバックする。					
関連科目							
持参物							
講義計画		講義内容					
1	マーケティングとは何か(事例研究)						
2	マーケティングにおける市場分析						
3	自社を取り巻く環境チェック(自社の分析)						
4	マーケティングの基本戦略(市場の細分化)						
5	" (広告効果を測る)						
6							
7	" (価格設定のテクニック)						
8	いまある商品を売るマーケティング						
9	ブランド戦略のためのマーケティン	ッグ					
10	" (人を慰	ま了するブランドづくり)					
11	Webマーケティングの基礎知識						
12	マーケティングを学んで(個人・グ	ループ) デスカッション					
13	鍼灸院の開業知識を身につけよう(諸手続き)						
14	コンセプトを決めよう						
15							
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験60%、授業態度・学習意欲(出席状況を含む)40% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。						
使用テキスト	図解&事例で学ぶマーケティングの教	<b>收科書</b>					
参考文献	コトラーのマーケティング30 ・ マー コトラーのマーケティング入門 ・ 鍼須		i.				

科目名		英語				
担当教員	米田 春美	実務経験の有無及び経歴				
対象学年	2年	開講学期				
単位数	講義 2単位	時間数	30時間			
科目の概要	鍼灸治療を英語で行うための基礎英語	語表現と語彙を学ぶ。				
科目の目標	外国人が鍼灸治療を受けに来た際、	また、海外で鍼灸治療を	行う際に対応できる英語力を養う。			
学習の到達目標	患者の訴えを理解するための身体や 表現を口頭で言える力を身に着ける。		、施術や指導する際に必要な英語			
学習方法・学習上の注意	積極的に英語会話訓練に参加する姿 び提出を怠らない。	勢が求められる。また、	語彙を蓄えるためのカード作成及			
関連科目						
持参物	テキストとして使	用する資料、 語彙学習	用のカード			
講義計画		講義内容				
1	語彙①人体各部の名称:外部器官 会話①電話での予約					
2	語彙②人体各部の名称:筋骨格系 会話②初診					
3	語彙③人体各部の名称:内部器官(1) 会話③問診					
4	語彙④人体各部の名称:内部器官(2) 会話④治療を行いながらの会話や指示					
5	語彙⑤診療科名 会話⑤灸治療の会話					
6	語彙⑥症状:風邪、インフルエンサ 会話⑥電気灸治療の会話	デ、消化器系				
7	語彙⑦症状:その他の症状と兆候 会話⑦問診用の様々な表現					
8	語彙⑧主な病気 会話⑧便利な表現、よくある質問の	<u></u> と答え方				
9	語彙⑨産婦人科系病気 会話⑨鍼灸治療に使う基本動詞の	のまとめ				
10	語彙⑩外傷と救急 鍼灸学基礎理論の英語(1)					
11	語彙⑪鍼灸による治療効果がWH 鍼灸学基礎理論用語の英語(2)	HOに承認されている療	長患			
12	筆記試験および口頭試験対策総	复習 (1)				
13	筆記試験および口頭試験対策総	复習 (2)				
14	口頭試験実施					
15	筆記試験実施					
成績評価の方法と基準	評価方法:筆記試験60%、課題提出5%、小テスト5%、口頭試験30% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。					
使用テキスト	語彙、会話表現、英	語対訳付問診票によっ	て構成される資料			
参考文献	Easy Nursing English(南山堂	堂) クリスティーンのやさしし	い看護英会話(医学書院)			

科目名		中国語					
 担当教員	孫犁冰	実務経験の有無及び経歴					
	1年	開講学期	通年				
単位数	講義 2単位	時間数	30時間				
科目の概要	中国語とは、日本語と同じく漢字を用 基本的な文法項目と発音を身につけ 近年、中国は産業・経済各方面におし りつつある。日本に近いようで遠い中	、中国語でのコミュニケー いて著しい成長が見られ	-ション能力を養う。 、国際社会における存在感が高ま				
科目の目標	・中国語の発音記号である「ピンヤ・単語、構文、文法について理解し・簡単な日常会話を中国語で話す・辞書を引きながら中国語の文章	ン、応用できる。 ことができる。					
学習の到達目標	・会話ができるように復習やレポー ・中国語を学ぶことによって、国際 る。						
学習方法・学習上の注意	・授業中、大きな声で音読する。 ・授業内容は録音、録画可。	・授業中、大きな声で音読する。					
関連科目							
持参物	黄色・水色・緑色のマーカー						
講義計画		講義内容					
1	ウォーミングアップ:中国語学習の秘訣						
2	第1課 はじめまして(基本文15、新出語30)						
3	第2課 ありがとう(基本文15、新出語30)						
4	第3課 地図を買う(基本文15、新出語30)						
5	第4課 交流(基本文15、新出語30)						
6	第5課 いつ(基本文15、新出語30)						
7	第6課 どのぐらい(基本文15、新出語30)						
8	第7課 私の一日(基本文15、新出語30)						
9	第8課 家族写真(基本文15、新出語	30)					
10	第9課 私の趣味(基本文15、新出語	30)					
11	第10課 天気を語る(基本文15、新出	<b>出語30</b> )					
12	第11課 銀行にて(基本文15、新出記	吾30)					
13	第12課 飛行機に乗る(基本文15、業	新出語30)					
14	第13課 道を尋ねる(基本文15、新出	<b>出語30</b> )					
15	第14課 タクシーに乗る(基本文15、	新出語30)					
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験50%、小テスト30%、学習意欲(授業態度)20% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。						
使用テキスト	孫犁冰著『30日で身につけよう中国語会話』株式会社好朋友(2018)、2,000円						
参考文献	特になし						

41 - 5						
科目名 		スタディスキルズ				
担当教員	山崎 史恵	実務経験の有無及び経歴				
対象学年	1年	開講学期	前期			
単位数	講義 1単位	時間数	15時間			
科目の概要	今後本学で授業や実習, 試験勉強等身につけておくべき基礎的な能力を養のモチベーションの維持や, 効率的な	きう。また試験勉強等に積	<b>極的かつ自主的に取り組むため</b>			
科目の目標	本授業で学んだことを活かしながら、各専門科目を能動的に受講できるようになること(聴く、読む、書く、考える、疑問を持つ)。また、自宅学習(復習)や試験勉強においては積極的かつ自主的に、工夫して課題に取り組めるようになること(調べる、整理する、覚える)。					
学習の到達目標	スタディースキルとはどのようなスキルかを具体的に説明できる 自分がどの程度スタディースキルを身につけているか現状を把握し、課題を見つける 実際の授業や自習、試験勉強などのシーンに関連づけて各スキルを実践できる					
学習方法・学習上の注意	本授業で学んだことを積極的に日々の授業で実践すること					
関連科目						
持参物						
講義計画	講義内容					
1	オリエンテーション スタディースキルとは?					
2	スタディースキルの現状―自己分析―					
3	記憶(記憶の仕組み, 復習の意義)					
4	記憶(暗記法, 定着のための工夫)					
5	学習(条件づけ、習慣を身につける)					
6	学習(行動修正, 行動変容)					
7	思考(情報を調べる,整理する)					
8	思考(問題解決, 柔軟な考え方)					
成績評価の方法と基準	評価方法:レポート70%, 学習意欲(出席状況含む)30% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。					
使用テキスト	適宜プリントを配布					
参考文献						

科目名		コミュニケーション技法				
担当教員	中島 郁子	実務経験の有無及び経歴				
対象学年	1年	開講学期	前期			
単位数	講義 2単位	時間数	30時間			
科目の概要	1. コミュニケーションの基本となる「聞 2. コミュニケーションに必要な「話す」。 3. 仕事の様々な場面にふさわしいコミ	ことについて学ぶ				
科目の目標	コミュニケーションのスキルは、社会人として必要な能力である。様々な場面を想定した コミュニケーションの知識を学び、実践力を身につけることを目標とする。					
学習の到達目標	<ol> <li>コミュニケーションの基本となる</li> <li>コミュニケーションに必要な話す</li> <li>仕事の様々な場面にふさわしし</li> </ol>	力を養う	<b>単解する</b>			
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布する。テキス また、授業内で検定に向けた練習	、トとプリントに沿って授 『問題も行う。授業後、:	業を行う。 各自で復習すること。			
関連科目						
持参物		テキスト、ノート等				
講義計画	講義内容					
1	オリエンテーション					
2	コミュニケーションを考える					
3	聞くカ 目的に即して聴く					
4	聞くカ 傾聴・質問する					
5	話す力 目的を意識する・話を組み立てる					
6	ā	舌す力 ことばを選び抜く				
7	Ī	話す力 表現・伝達する				
8		来客対応•電話対応				
9	ア	ポイントメント・訪問・挨拶	ş			
10		情報共有の重要性				
11	Ŧ	ム・コミュニケーション				
12	扫	接客・営業・クレーム対応				
13	会	議・取材・ヒアリング・面接	<u> </u>			
14	練習問題・復習					
15		試験				
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・ D(60点未満)とする。					
使用テキスト	・コミュニケーション検定初級 公式力 (サーティファイ コミュニケーション					
参考文献						

科目名		情報処理I				
担当教員	小林 克明	実務経験の有無及び経歴				
対象学年	1年	開講学期	前期			
単位数	講義 2単位	時間数	30時間			
科目の概要	Microsoft Word&Excelの操作方法を	身につける				
科目の目標	WordとExcelの操作が自分の利用 または、わからないことを自分なり 及び、メールの作成方法を身につ	に調べて知識を増やす				
学習の到達目標	Word・・・インデントやタブを使って見栄えの良い定型文が作成できること。及び、図形や表を挿入して分かりやすい文章作成ができる。 Excel・・・目的に応じたデータベースを作成できること。簡単な関数が使えること。					
学習方法・学習上の注意	内容が身につくように、操作をする時間をできるだけ多く取る。					
関連科目	情報処理Ⅱ					
持参物	毎回	配るテキスト、筆記用具な	<b></b> まど			
講義計画		講義内容				
1	オリエンテーション					
2	授業内容の説明、メールの送受信の練習、					
3	Word基礎(入力)					
4	   Word編集、いろいろなコピー 					
5	Word インデント、タブ					
6	Word 図形の挿入					
7	Word オリジナルカードの作成					
8	Word 表の挿入、確認問題					
9	Excel 表を作る、編集					
10	Excel 計算式の挿入、(手入力)					
11	Excel 計算式の挿入、(関数)					
12	Excel グラフの作成					
13	Excel データベース機能を使う					
14	Excel 印刷に関する各種設定					
15	Excel 確認問題					
成績評価の方法と基準	出席状況(学校の基準による)及び授業態度(真剣に取り組んでいるか)20%、提出物(有無、内容)10%、Word&Excelそれぞれ科目終了時の確認問題(授業の内容が理解できているか)70%					
使用テキスト	小林自作のテキストプリント					
参考文献	各問題集など					

科目名						
担当教員	小林 克明	実務経験の有無及び経歴				
対象学年	1年	開講学期	前期			
単位数 	講義 1単位 	時間数	15時間			
科目の概要	Microsoft PowerPointの操作方法を身	とにつける				
科目の目標	目的に応じて、わかりやすいプレゼンテーションを作成し、それをもとに発表をすること。					
学習の到達目標	自分の伝えたい内容を視覚的にわかりやすくまとめたスライドの作成ができる。また、それをもとに皆の前で発表ができる。					
学習方法・学習上の注意	実際に操作と発表に挑戦する					
関連科目	情報処理 I					
持参物	毎回配るテキスト、筆記用具など					
講義計画	講義内容					
1	PowerPoint スライド作成の基礎					
2	PowerPoint 入力の仕方					
3	PowerPoint スライドに表、グラフ、図形を追加する					
4	PowerPoint アニメーションの追加					
5	PowerPoint 練習問題					
6	PowerPoint 「自分について」のプレセ	ジンテーション作成				
7	PowerPoint 作成したプレゼンテーシ	ョンの発表				
8	PowerPoint 各自の発表とその感想を	きまとめる				
成績評価の方法と基準	出席状況(学校の基準による)及び授業態度(真剣に取り組んでいるか)20%、提出物(有無、内容)10%、プレゼンテーションの発表(プレゼンテーションに指定の内容が盛り込んであるか。おもいっきり自分を表現できているか。元気に発表しているか)70%					
使用テキスト	小林自作のテキストプリント					
参考文献	市販の問題集など					

科目名		解剖学 I					
	影山 幾男						
担当教員		実務経験の有無及び経歴	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\				
対象学年	1年	開講学期	通年				
単位数	講義 3単位	時間数	45時間				
科目の概要	人体解剖学では正常なヒトの構造について肉眼解剖学的に諸器官の形態学的特徴と人体の構造を理解する。「解剖学皿」では「神経解剖学」、「脈管学」の講義を扱う。 「神経解剖学」では、刺激を伝達・統合する神経系の解剖学的特徴について学ぶ。「脈管学」では、物質運搬の交通網である脈管系について学ぶ。 人体解剖学の理解には、ヒトのからだを系統別に分けて理解するだけではなく、ヒトの発生過程や脊椎動物の進化過程についても思いをめぐらし、形態形成学を学ぶことが肝心である。						
科目の目標	人体の正常な形態と構造について学び、鍼灸師として必要な解剖学的知識を修得する。						
学習の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	神経解剖学の到達目標: - 脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。 - 脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。 - 脳脊髄神経と自律神経の違いについて説明できる。 - 脳管神経を直接と自動性を説明できる。 - 宇宙、 一						
学習方法・学習上の注意			義を行うので、事前に配布する教科書「解剖 に臨むこと。また、講義ごとに講義内容のプリン				
関連科目		生理学、病理学					
持参物		教科書、配布プリント、/ 講義内容	トナスト				
		神経系の区分と特徴	2神経組織 a.神経細胞(ニューロン) b.				
1	神経細胞の種類 c.支持細胞、電話局の話						
	中枢神経系②:3灰白質、白質と神経節、根 4中枢神経系の区分						
-	中枢神経系③: 5脳室系 6髄膜と脳脊髄液 a.硬膜 b.クモ膜 c.軟膜						
	中枢神経系④:脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 溝と回、中枢神経系の血管 中枢神経系⑤:脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 機能局在						
	中枢神経系⑥:脳 1各部の形態						
	中枢神経系⑦:脳 1各部の形態						
	中枢神経系(8): 脊髄 a.前根と後						
_	中枢神経系⑨: 伝導路1 a.下		TANKII SII MEETI TAIVITAE				
	中枢神経系⑩:伝導路2 b.上行						
11 3	末梢神経系① 1脳神経 Ⅰ.嗅神		神経 Ⅳ. 滑車神経の起始・走行・分布・				
· ·	障害 末梢神経系② 1脳神経 V.三叉		顔面神経の起始・走行・分布・障害				
		耳神経 区. 舌咽神経	X. 迷走神経 XI. 副神経 XII. 舌下神				
	経の起始・走行・分布・障害 末梢神経系④ 2脊髄神経 a.脊ჼ	随神経後枝 b.頚神経遺	뿣 귳				
15	末梢神経系⑤ 2. 脊髄神経 c.版	a神経叢 d.胸神経 e.l	要神経叢				
16	末梢神経系⑥ 2. 脊髄神経 f.仙	  骨神経叢 g.陰部神経	叢 h.尾骨神経 i.デルマトーム				
17 7	神経解剖学⑦:3自律神経系 a.交	感神経系 b.副交感神	経系 c.関連痛				
	派管学①:A総論 1体循環と肺循 心臓 1心臓の位置と形態 2心臓		₹ 2血管の形態と構造 a.形態 b.構造 B 房室弁 b動脈弁				
19 /		洞)a.右冠状動脈 b.左	莫 5刺激伝導系 a.洞房系 b.房室系 6 記状動脈 c.冠状静脈洞 7心臓の神経				
	派管学③:C心脈管系 C-1肺循斑 部の動脈 c.上肢の動脈 d.胸大!		(大循環) 1動脈系 a.大動脈 b.頭部、頚 盤部の動脈 g.下肢の動脈				
21 月	脈管学④:2静脈系 a.上大静脈	b.下大静脈 c.門脈 d.	骨盤部の静脈 e.下肢の静脈				
	派管学⑤:3胎児循環 Dリンパ系 分布 c.脾臓 d.胸腺	1リンパ本幹 2リンパ	性器官 a.リンパ節の構造 b.リンパ節の				
23	惑覚器系: 視覚器、平衡聴覚器、	皮膚、味覚器、嗅覚器					
	評価方法:「容観試験」および「記述試験」を実施し、60点以上を合格とする。 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。						
使用テキスト	「解剖学」第2版 医歯薬出版、河野邦	雄、伊藤隆造他著					
参考文献	分担解剖学2、金原出版、平沢興著						

科目名	解剖学Ⅱ						
担当教員	小林 一広	実務経験の有無及び経歴					
対象学年	1年	開講学期	前期				
単位数	講義 3単位	時間数	45時間				
科目の概要	解剖学は医療の基礎となる重要な常態と構造、それらの機能を理解する 1.人体を構成する諸器官の形態や相 2.更に人体を総合的に理解するため	ことは必須である。 構造について学ぶ。					
科目の目標	人体を総合的に理解するために、人体を構成する諸器官の形態と構造と機能との関連 知識を身につける。						
学習の到達目標	<ol> <li>人体を構成する諸器官について理解する。</li> <li>人体を構成する諸器官の形態について理解する。</li> <li>人体を構成する諸器官の構造について理解する。</li> <li>人体を構成する諸器官の構造について理解する。</li> </ol>						
学習方法・学習上の注意	次回の講義について予習し、毎 理解しておくこと。	回講義をしっかり受講し、	また講義後の復習も励行し、				
関連科目		生理学					
持参物	教科[	書(解剖学)、配布プリント、ノ	<b>-</b> ト				
講義計画	講義内容						
1	消化器	消化器全般の構成について理解する。					
2	消化管(口腔)の構造と機能を理解する。						
3	消化管(咽頭・食道)の構造と機能を理解する。						
4	消化管(胃)の構造と機能を理解する。						
5	消化管(小腸)の構造と機能を理解する。						
6	消化管(大腸)の構造と機能を理解する。						
7	消化器(肝臓)の構造と機能を理解する。						
8	消化器(膵臓・腹膜)の構造と機能を理解する。						
9	泌尿器(腎臓)の構造と機能を理解する。						
10	泌尿器(尿管	・膀胱・尿道)の構造と機能を	理解する。				
11	男性生殖器	(精巣・精路)の構造と機能を	理解する。				
12	男性生殖器(付	「属腺・外陰部)の構造と機能	を理解する。				
13	女性生殖器(卵	巣・卵管・子宮)の構造と機能	を理解する。				
14	女性生殖器(膣・付属腺・外陰部)の構	構造と機能を説明する。性周期	朝と分泌するホルモンを理解する				
15	これま <sup>・</sup>	での学習内容を復習し理解す	ける。				
16	内分泌器	(下垂体)の構造と機能を理解					
17	内分泌器(甲	状腺・副腎)の構造と機能を	理解する。				
18	内分泌器()		 B解する。				
19	呼吸器	(鼻腔)の構造と機能を理解す	ける。				
20	呼吸器(咽頭・喉頭・気管・気管支)の構造と機能を理解する。						
21	呼吸器(肺・	胸膜・縦隔)の構造と機能を理	里解する。				
22	これまでの学習内容を復習し理解する。						
23		での学習内容を復習し理解す	ける。				
 式績評価の方法と基準	これまでの学習内容を復習し理解する。 評価方法:定期試験100% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。						
 吏用テキスト	解剖	学(医歯薬出版株式会	社)				

科目名		解剖学Ⅲ				
担当教員	佐藤 徳昭	実務経験の有無及び経歴				
対象学年	1年	開講学期				
単位数	講義 4単位	時間数	60時間			
科目の概要	人体の仕組みと成り立ちを学習し、個々の仕組みを理解しそれぞれの関連性を系統的に学び、専門医学学習上の基礎を築く。まとめで、解剖実習を行い標本にて確認する。鍼灸臨床の中で解剖学は、基礎の分野でも重要な位置を占める。解剖学の知識が乏しければ、経絡経穴・鍼灸実技・手技療法等々全ての科目の学習がむずかしくなる。この点を踏まえて各部の名称と機能を学習し今後の学習のための基礎を作る。					
科目の目標	頭部・体幹・四肢の筋肉や骨の名称、 の重要性を学ぶ。	またそれらの機能などを	知ることで、人体における筋肉運動			
学習の到達目標	人体の筋肉・骨の位置関係や機能を また取穴の際の指標として活用できる					
学習方法・学習上の注意	配布したプリント、及び資料の整理					
関連科目	①経絡経穴概論 経穴の部位を理解するためには、指標となる骨や筋の位置関係を知っておく必要がある ②実技各種 目標とする筋に施術するためには、筋の起始・停止や正確な位置を把握しておく必要がある					
持参物	配布プリント。3色以上の蛍光ペン。ノート。					
講義計画		講義内容				
1~4	解剖学基礎(細胞・組織)					
5~6	神経系と循環器系					
7~8	運動器系 総論					
9~10	春柱と胸郭					
11~12	上肢帯と自由上肢の骨					
13~14	下肢帯と自由下肢の骨					
15~17	頭蓋骨					
18~20	末梢神経系					
21	中間試験/下肢帯と大腿の筋					
22	下腿と足の筋					
23	上肢帯と上腕の筋					
24	前腕の筋					
25	手の筋					
26	胸筋/腹筋					
27	会陰筋/背筋					
28~29	頭部と頚部の筋					
30	期末試験及び解説					
成績評価の方法と基準	評価方法:中間試験と期末試験80%、学習意欲(出席状況を含む)20%					
使用テキスト	『解剖学 第2版』:東洋療法学校協会					
参考文献	『ネッター 解剖学アトラス 第4版』: 南 『グレイ解剖学アトラス』: エルゼビア・ 『イラスト解剖学 第5版』: 中外医学社 『解剖アトラス 第3版』: 文光堂 その	ジャパン株式会社 t				

F-	T		
科目名	生理学 I		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年生	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	生理学 I では日頃私たちが意識する ば、心臓が動く仕組み、呼吸ができる て変化するわけではありませんが、私	仕組み、尿が出る仕組み	などです。このような働きは意識し
科目の目標	人の体の働きを学びます。私たち 理学 I では生命活動の仕組みにすることは、例えば病気になったと	ついて学び理解します	。正常な身体の仕組みを理解
学習の到達目標	生理学の基礎を学び、理解し、更機能について理解する。	に循環系・呼吸系・消化	ヒ系・排泄系・内分泌系の生理
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリント6 リントを借りるなどして、自分でしっ		
関連科目	解剖学、病理学、病		
持参物 ————	教科	‡書(生理学)、配布プリン	<u>'</u>
講義計画		講義内容	
1		導入、生理学の基礎①	
2		生理学の基礎②	
3		循環①	
4		循環②	
5		循環③	
6		循環④	
7		循環⑤	
8	循環⑥		
9	循環⑦		
10	循環⑧		
11	循環⑨		
12	呼吸①		
13	呼吸②		
14		呼吸③	
15	呼吸	&④、消化と吸収① (導 <i>)</i>	N)
16		消化と吸収②	
17	消化と吸収③		
18		消化と吸収④	
19		消化と吸収⑤	
20		消化と吸収⑥	
21		排泄①	
22		排泄②	
23		排泄③	
24		内分泌①	
25		内分泌②	
26	内分泌③		
27	内分泌④		
28	内分泌⑤		
29	内分泌⑥		
30	復		)
成績評価の方法と基準	復習(消化と吸収~内分泌) 評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。中間試験結果が60%未満の者には確認試験を行い、期末試験結果で60%未満の者には再試験を行う。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	生理学 第	第3版(医歯薬出版株	式会社)
参考文献	集中講義生理学 メジカ	カルビュー社 新生理	里学 日本医事新報社

되므쇼				
科目名	生理子口			
担当教員	新村孝雄	実務経験の有無及び経歴		
対象学年	1年	開講学期	通年 	
単位数	講義 4単位	時間数	60時間	
科目の概要	生物が示す生命現象を理解し、様々な生命現象が協調と統制によって人体生活動が維持されていることを理解する。特に、生理学を学んだ後に病態生理・臨床医学各論とつながるように暗記に頼らず理解をして、最終目標である鍼灸臨床で患者に説明できるような活用できる知識を習得する			
科目の目標	患者に人体の正常な状態はどのような状態であるか自らの言葉で表現できるようになる。その後、2年次には生理学や解剖学をベースとして病態生理を学び患者にその病能を説明できるようにする。			
学習の到達目標	生理学の基礎を学び、栄養と代謝 体の中で何が起こっているのかを			
学習方法・学習上の注意	配布プ	リントと教科書をもとに	講義	
関連科目	病理学概論:学習した生理機能 病態生理:生理・病理を踏まえて! 臨床医学各論:総まとめとして、生	<b>病態生理が成立するた</b>	め、生理学知識の復習を行う。	
持参物				
講義計画		講義内容		
1		体温(1)		
2		体温(2)		
3		体温(3)		
4		代謝(1)		
5	14	<b>だ謝(2) 小テスト(体温)</b>		
6		代謝(3)		
7		代謝(4)		
8	生殖(1)			
9	生殖・成長と老化(2) 小テスト(代謝)			
10	生殖・成長と老化(3)			
11	生殖・成長と老化(4)			
12	神経(1)			
13	神経(2) 小テスト(生殖・成長と老化)			
14	神経(3)			
15	神経(4)			
16		神経(5)		
17		神経(6) 		
18		神経(7) 		
19	E	神経(8)		
20		*見(T) 小アスト(仲程)  感覚(2)		
21		感覚(3)		
23		感覚(4)		
24		<u> </u>		
25		筋(2)		
26	筋(3)			
27	運動(1) 小テスト(筋)			
28	運動(2)			
29	運動(3)			
30	小テスト(運動) 問題演習			
成績評価の方法と基準	評価方法:各章ごとの小テストと期末試験により評価する。 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。			
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 生理学			
参考文献		医学書院 標準生理学		
_	•			

科目名	解剖生理 I				
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴			
対象学年	2年	開講学期	通年		
単位数	講義 3単位	時間数	45時間		
科目の概要	1年次に履修した解剖学と生理学を系統別に学習する。				
科目の目標	各系統ごとに正常な構造および機	能を理解し、説明でき	る。		
学習の到達目標	1年次に使用した資料や教科書等	を含め、自主的にまと	めを行うことができる。		
学習方法・学習上の注意	字だけで覚えない。「身体のどの辺りで何が行われているのか」というイメージをしながら 学ぶ。				
関連科目	解剖学 I·Ⅱ、生理学 I	・Ⅱ、臨床医学総論、閏	点床医学各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
持参物	教科書·筆記/	用具(色ペン複数本)・	配布プリント		
講義計画	講義内容				
1	オリエンテーション・循環器系				
2~6	循環器系				
7 <b>~</b> 11	消化器系				
12~16		内分泌			
18~20		呼吸器系			
21~23	泌尿器系				
成績評価の方法と基準	評価方法:期末試験の得点(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。				
使用テキスト	配布プリント				
参考文献	解剖学第2版(医歯薬出版) 生理学第3版(医歯薬出版)				

科目名	解剖生理Ⅱ		
担当教員	岩村英明 実務経験の有無及び経歴		
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	1年次に学習した解剖学と生理学 解剖生理Ⅱでは「体温」、「生殖・病		
科目の目標	同一分野での解剖と生理の統合を行い、病態把握など臨床での鑑別能力の基礎となる 知識をしっかりと定着させる。		
学習の到達目標	1. 体温に関する内容について知識を定着させる。 2. 生殖・成長・老化に関する内容について知識を定着させる。 3. 神経に関する内容について知識を定着させる。 4. 筋に関する内容について知識を定着させる。 5. 運動に関する内容について知識を定着させる。 6. 感覚に関する内容について知識を定着させる。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの う。	D記述に沿って授業を	行う。予習・復習はしっかり行
関連科目	解剖学、生理学		
持参物	教科書(解剖学、生理学)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	体温		
2~3	生殖・成長・老化		
4~11		神経	
12~13		復習	
14		筋	
15~17		運動	
18~22		感覚	
23		復習	
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社) 生理学 第3版(医歯薬出版株式会社)		
参考文献			

科目名	運動学			
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴		
対象学年	2年	開講学期	後期	
単位数	講義 2単位	時間数	30 時間	
科目の概要	運動学は人の動き(movement)、動 学、力学などを基礎にする。	」作(motion)を主として対象	象とする学問であり、解剖学、生理	
科目の目標	運動を可能にしている構造とその	機構(mechanism) を理解 <sup>-</sup>	する。	
学習の到達目標	1. 運動学の理念について理解する 3. 身体各部の機能を理解する。	る。□2. 運動学の基礎につ	ついての知識を身につける。	
学習方法・学習上の注意	教科書の音読、出題形式のプリント	〜を配布し、回答させて後	に解説を行う。予習と復習をさせる。	
関連科目	   解剖学 生理学 			
持参物	教科書(リ/	<b>ヽ</b> ビリテーション医学)、配	布プリント	
講義計画		講義内容		
1		関節と運動の力学		
2		姿勢とその異常		
3	運動路と感覚路			
4	反射と随意運動			
5	音柱と体幹の機能 音柱と体幹の機能			
6	肩甲帯と肩の機能①			
7	肩甲帯と肩の機能②			
8	ーニーニー			
9		手と手指の機能		
10		骨盤と股関節の機能		
11		膝関節の機能①		
12		膝関節の機能②		
13		足の機能		
14	正常歩行と異常歩行			
15	顔面および頭部の筋			
成績評価の方法と基準	評価方法:期末試験の得点(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未 満)とする。			
使用テキスト	リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)			
参考文献	解剖学アトラス(文光堂)			

科目名			
	4n + 10 4		
担当教員	御書隆之 ————————————————————————————————————	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年生	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	1年生では正常構造や機能を系統論はこれらの基礎医学系科目と、 役割を担う科目です。人体の疾病 理学的知識を習得します。	今後登場する臨床医療	学系科目とをリンクさせる重要な
科目の目標	概要でも述べたように、人体の疾 本的な病理学的知識を習得するこ 病への理解を深めていきます。		
学習の到達目標	1. 病理学とは何かを理解する。2 る。4. 循環障害について理解する について理解する。7. 炎症につし 常・アレルギーについて理解する。	る。5. 退行性病変につ ヽて理解する。8. 腫瘍	いて理解する。6. 進行性病変 について理解する。9. 免疫異
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの 欠席した場合、友人からプリントを さい。		
関連科目	生理学、衛生学、臨床	医学総論、臨床医学符	<b>各論、はりきゅう理論</b>
持参物	教科書	(病理学概論)、配布フ	<sup>(</sup> リント
講義計画		講義内容	
1	病理学の定義と分類~予後及び転帰		
2	病因①		
3	病因②		
4		病因③、循環障害①	
5		循環障害②	
6	循	環障害③、退行性病変	ξ
7		進行性病変	
8		中間試験	
9		炎症①	
10		炎症②	
11		腫瘍①	
12		腫瘍②	
13	腫瘍③	③、免疫異常・アレルギ	<b>-</b> ①
14		・アレルギー②、染色体	異常①
15		先天性異常	
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。中間試験結果が60%未満の者には確認試験を行い、期末試験結果で60%未満の者には再試験を行う。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	『病理学概論 第2版』: 医歯薬出版株式会社		
参考文献	アンダーウッド 病理学 西村書店、カラーで学べる 病理学 NOUVELLE HIROKAWA		

科目名		臨床医学総論	
担当教員	新村孝雄 実務経験の有無及び経歴		
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	臨床で患者様から得られる所見を元に、病名や予後をある程度推定できるようにし、鍼 灸施術につなげていけるようにする。また、鍼灸施術を回避し、医療機関に迅速に送らなければならないレッドフラッグ疾患を見逃さないスキルを身に着ける。		
科目の目標	臨床所見の名前や意味と、それから類推しうる疾患名を覚える。臨床所見の取り方・検査の方法などを理解し、身に着ける。レッドフラッグ疾患の徴候を覚える。		
学習の到達目標	患者様に対して、適切な医療面接	を行うための基礎知識	を身に着ける。
学習方法・学習上の注意	配布プ	リントと教科書をもとに	講義
関連科目		疾患の病態生理や発症 名別に臨床所見や症む	
持参物			
講義計画		講義内容	
1		授業導入 POS 問診	
2		医療面接 打診 聴診	
3		発熱 脈拍	
4		血圧	
5		呼吸	
6		顔貌~体型·栄養状態	
7	姿勢~皮膚		
8	皮膚~頭部		
9	小テスト①		
10	顔	面~耳 脳神経系の検査	
11		口腔~肺・胸膜	
12	肺・胸膜		
13		心臓~腹部	
14		四肢	
15		四肢	
16	感覚検査法 反射検査		
17	小テスト②		
18	反射	村検査 髄膜刺激症状検	<u> </u>
19	ì	運動麻痺~筋肉の異常	
20		不随意運動	
21	<b>7</b>	「随意運動〜起立と歩行	
22	徒手	による整形外科学的検査	法
23	徒手	による整形外科学的検査	·····································
24		小テスト③	
25		救急時の診察	
26	一般検査		
27	血液生化学検査		
28	血液生化学検査		
29	生理学的検査および画像診断の概要		
30	生理学的検査および画像診断の概要		
成績評価の方法と基準	評価方法:各章ごとの小テストと期末試験により評価する。 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
	医歯薬出版株式会社 臨床医学総論 第2版		
使用テキスト	医图染口加 ————————————————————————————————————	以休式云社 临外区子税	研 \$2M

科目名	臨床医学各論 I			
担当教員	角田朋之 実務経験の有無及び経歴			
対象学年	2年	開講学期	後期	
単位数	講義 3単位	時間数	45 時間	
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、 し病態を理解する。	これまで学習してきた西	羊医学的基礎に基づき疾患を鑑別	
科目の目標			ようにする。特に、緊急を要する疾 者様に病態を説明して理解と同意	
学習の到達目標	感染症・消化管疾患・肝胆膵疾患・ を理解すること。	呼吸器疾患それぞれの	<b>病態生理を理解し、特徴的な所見</b>	
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持ってくること。			
関連科目	全ての西洋医学的基礎分野が、関 床医学各論となる。基礎の学習が と感じる場合適宜復習をして授業(	不十分では、ここで学習が	が困難となる。基礎が不十分である	
持参物 ————		配布プリント		
講義計画		講義内容		
1	プロ	ローグ/感染のメカニス	<u>, 7</u>	
2	厄			
3	厄			
4		細菌感染症①		
5		細菌感染症②		
6	ウイルス感染症			
7	性感染症/その他の感染症			
8	感染症テスト/消化管疾患でみられる主要症状			
9	口腔疾患・食道疾患/悪性腫瘍概論			
10	胃十二指腸解剖生理/胃十二指腸疾患			
11	胃十二指腸疾患/大腸解剖生理			
12	大腸疾患			
13		大腸疾患/腹膜疾患		
14	消化管疾患テス	スト/肝臓解剖生理/肝線 ロール	<b></b>	
15	肝	疾患主要症状/肝疾患	Į.	
16	肝臓疾	患/胆囊解剖生理/胆	疾患	
17		胆囊・胆道疾患		
18	膵	臓解剖生理/膵臓疾患		
19	肝胆膵テスト/	呼吸器解剖生理/呼吸	器主要症状	
20	感染性呼吸器疾患/閉塞性呼吸器疾患			
21	閉塞性呼	吸器疾患/拘束性呼吸	<b>大器疾患</b>	
22	気胸/肺癌			
23		その他の肺疾患		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。			
使用テキスト	『臨床医学各論第2版』 医歯薬出版社			
参考文献	『病気がみえる』『ビジュアルノート』 メディックメディア社			

科目名	臨床医学各論Ⅱ				
担当教員	佐々木勇人 実務経験の有無及び経歴				
対象学年	3年	開講学期	前期		
単位数	講義 4単位	時間数	60時間		
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これ 病態を理解する。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	医学的基礎に基づき疾患を鑑別し		
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似れ	<b></b> 疾患との鑑別ができるよ	うにする。		
学習の到達目標	疾患それぞれの病態生理を理解し、特	寺徴的な所見を理解する	こと。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持ってくること。				
関連科目		解剖学・生理学・病理学			
持参物	类	対書、ノート、筆記用具			
講義計画					
1~4	2年時の復習 I				
5~8	2年時の復習Ⅱ				
9~10	2年時の復習Ⅲ				
11~14					
15~18	6章 内分泌疾患				
19	まとめと確認				
20~21	7章 糖•代謝疾患				
22~26	8章 整形外科疾患				
27~29	9章 循環器疾患				
30	総まとめ				
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。				
使用テキスト	授業プリント、臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)				
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)、解剖学(医歯薬出版株式会社)				

科目名	臨床医学各論皿		
担当教員	佐々木勇人 実務経験の有無及び経歴		
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これ 病態を理解する。	れまで学習してきた西洋図	医学的基礎に基づき疾患を鑑別し、
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。		
学習の到達目標	疾患それぞれの病態整理を理解し、特	寺徴的な所見を理解する	<b>こと。</b>
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目		解剖学·生理学·病理学	
持参物	<del></del>	数科書、ノート、筆記用具	
講義計画			
1~4	10章 血液·造血器疾患		
5~8	11章 神経疾患		
9~10	まとめと確認		
11~14	12章 リウマチ性疾患・膠原病		
15~18	13章 その他の疾患		
19	まとめと確認		
20~21	3年時の復習 I		
22~23	3年時の復習 Ⅱ		
24~25	3年時の復習Ⅲ		
26~27	3年時の復習Ⅳ		
28~29	3年時の復習Ⅴ		
30	まとめと確認		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	授業プリント、臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)		
参考文献	生理学(医歯薬出版	株式会社)、解剖学(医態	薬出版株式会社)

科目名 	リハビリテーション医学				
担当教員	岩村英明 実務経験の有無及び経歴				
対象学年	2年	開講学期	通年		
単位数	講義 4単位	時間数	60時間		
科目の概要	1. リハビリテーションの概念、リハビ テーション医療などについて学ぶ。 2. 各疾患のリハビリテーションを学ぶ		<b>経事者、障害の評価、リハビリ</b>		
科目の目標	リハビリテーションとは何かを理解し、 る。	リハビリテーション医学・	医療についての知識を身につけ		
学習の到達目標	<ol> <li>リハビリテーションの理念について理解する。</li> <li>障害のとらえ方について理解する。</li> <li>身体障害者の動向についての知識を身につける。</li> <li>リハビリテーションチームを構成するメンバーの職種について理解する。</li> <li>障害の各種評価方法を覚える。</li> <li>医学的リハビリテーションとしてどのような療法があるのか、またその内容について覚える。</li> <li>各疾患のリハビリテーションの内容について理解する。</li> </ol>				
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記	!述に沿って授業を行う。	予習・復習はしっかり行う。		
関連科目	解剖学、生理	里学、臨床医学総論、臨月	<b>卡医学各論</b>		
持参物	教科書(リノ	ヽビリテーション医学)、配	布プリント		
講義計画		講義内容			
1~3	リハビリテーショ	ンと障害、リハビリテーシ	ョン医学と医療		
4~5	心	身機能・身体構造の評価	ī		
6	活動の評価	i、合併症の評価、運動麻	痺の評価		
7	運動年齢テスト、失行失認テスト、心理的評価				
8	理学療法(運動療法)				
9	理学療法(物理療法)、作業療法、言語聴覚療法				
10~11	補装具				
12~13	復習				
14~15	脳卒中のリハビリテーション				
16~17	脊骼	随損傷のリハビリテーショ	ン		
18~19	ţ	刃断のリハビリテーション			
20~21	1.	小児のリハビリテーション			
22~23	骨関	節疾患のリハビリテーシ	ョン		
24	関節 <sup>1</sup>	リウマチのリハビリテーシ	ョン		
25	末梢ネ	申経障害のリハビリテーシ	<b>/</b> ョン		
26	パーキ	ンソン病のリハビリテージ	ション		
27	呼吸	器疾患のリハビリテーシ:	ョン		
28	心疾患のリハビリテーション				
29~30	復習				
成績評価の方法と基 準	評価方法:試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。				
使用テキスト	リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)				
参考文献	リハビリテーション医学(医圏楽出版株式会社)  リハビリテーション医学(南江堂)  リハビリテーション医学テキスト(南江堂)  リハビリテーションビジュアルブック(学研メディカル秀潤社) 標準リハビリテーション医学(医学書院)				

科目名	公衆衛生学		
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年生	開講学期	前期
単位数	2	時間数	30
科目の概要	公衆衛生学の概論を学ぶ。最新のデータする。	タに基づき、医療技術者とし	て知っておくべき基礎的な教養を学習
科目の目標	医療技術者として、また一般教養としての きるようにする。医療技術者としての基礎: また国家試験科目であり国家試験を合格	素養として、他の医療技術を	<b>当と共通認識できるようにする。</b>
学習の到達目標	医療技術者として必要となる公衆衛生学(認識できるようにするととも国家試験問題		いままで
学習方法・学習上の注意	配布プリントの復習		
関連科目	生理学、医	医療概論、関係法規、臨床医	<b>三学各論</b>
持参物		配布プリント、筆記用具	
講義計画	講義内容		
1~2	衛生学・公衆衛生学の意義・健康		
3~4	ライフスタイルと健康		
5 <b>~</b> 6	環境と健康		
7	産業保健		
8	精神保健		
9	母子保健		
10	됩	子保健、成人・高齢者保健	
11~12		感染症	
13		消毒法	
14	疫学、保健統計		
15	国際保健		
成績評価の方法と基準	評価方法:期末試験の得点(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	公衆衛生が見える: MEDIC MEDIA、配布プリント		
参考文献	衛生学•	公衆衛生学 第2版:医歯薬	5. 产品的 1.

科目名	経営と法律			
担当教員	角田朋之 実務経験の有無及び経歴			
対象学年	3年	開講学期	前期	
単位数	講義 2単位	時間数	15時間	
科目の概要	法律:あん摩マッサージ指圧師、はり 経営:実際に治療院を開業できるよう 要な数字の知識、資金集め、開業によ	に、どのようなコンセプト	で、どこに治療院を作るのか。経営に必	
科目の目標	法律: 医療従事者として、知っておかれ 経営: 開業するために必要な準備がて		罰則を理解し遵法できるようにする。	
学習の到達目標	許に関する事務などについて覚える。 の業務独占、業務範囲、施術に関する について覚える。7. あはき業務の停息 罰則、両罰規定について覚える。9. 個	4. あはき師の身分の消 る注意について覚える。6 止について覚える。8. 旅 医療法などについて覚え	格要件について覚える。3. あはき師免滅と復活について覚える。5. あはき師ら、あはき師の施術所などに関する規制術者等に関する罰則、施術所に関するる。10. 社会福祉(保険)関係の法律になる。「事業計画書」を作成できるよう	
学習方法・学習上の注意		医療概論の授業ででて	足りない部分についてはプリントを配布 くる法律とも重なってくるので、各自それ	
関連科目	公衆衛生学、医療概論			
持参物	教科書(関係法規)、配布プリント、PC	C、電卓		
講義計画				
1	法とは何か			
2	免許と試験			
3	業務の独占と業務の範囲 ~ 業務の停止			
4	無免許営業の取り締まり ~ 罰則			
5	医療法 ~ その他の医療従事者に関する法律			
6	薬事法規、衛生関係法規			
7	社会福	<b>祉関係法規、社会保</b> 険	関係法規	
8		中間試験		
9	鍼灸	と治療院の開業① 損益	計算書	
10		と治療院の開業② 損益	計算書 	
11	鍼多	と治療院の開業③ 事業	計画書	
12		と治療院の開業④ 事業	計画書	
13	鍼多	鍼灸治療院の開業⑤ 事業計画書		
14	鍼灸治療院の開業⑥ 事業計画書			
15	鍼灸治療院の開業⑦ 事業計画書			
成績評価の方法と基準	評価方法:中間試験で(40%)、課題提出が(40%)、学習意欲(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)と する。			
使用テキスト	『関係法規 第7版』:医歯薬出版株式会社、配布プリント			
参考文献				

科目名	医療概論			
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴		
対象学年	1年生	開講学期	前期	
単位数	講義 1単位	時間数	15時間	
科目の概要	医療人の基礎教養として、医学の歴史及び現代の医療制度ならびに医療倫理について学習する。			
科目の目標	医療制度は一般的な基礎教養でできるように熟知する。また、医療 集し、知識を得るように心がける。			
学習の到達目標	日常の鍼灸臨床において、基本的 少なくない。知識を自分のものとし			
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。欠席した場合、友人から プリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。			
関連科目	関係法規、伝統医学概論、衛生学・公衆衛生学			
持参物				
講義計画	講義内容			
1	医学史序説・西洋医学の歴史			
2	西洋医学の歴史			
3	東洋医学の歴史			
4		日本の医学の歴史		
5		現代の医療制度		
6		現代の医療制度		
7		医療倫理		
8		期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。期末試 験結果で60%未満の者には再試験を行う。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠 席扱いとすることがあります。			
使用テキスト	教科書、配布プリント			
参考文献	『医療概論』: 医歯薬出版株式会社			

科目名	経絡経穴概論			
担当教員	佐藤 徳昭 実務経験の有無及び経歴 鍼灸あん摩マッサージ指圧師とし			
	1年	開講学期	て医療現場に従事 	
対象学年 	講義 6単位	時間数	90時間	
<b>単世</b> 叙				
科目の概要	施術部位の基本となり、診断の部位ともなる経絡経穴について学習する。流注や経穴の場所及 び局所の解剖を交えて、各経絡経穴を学習する。 主として十四経脈(正経十二経脈・任脈・督脈)と要穴について学び、後半には奇穴および奇経 八脈についても触れる			
科目の目標	経穴名を言われて、その経穴がどの経絡に属し、凡そどの部位にあるのか指し示すことができるようにする。また、流注がイメージとして頭に入り、各終絡がどの部位を走行し、どの部位で接続しているかを理解できるようにする。要穴をしっかり記憶し、伝統医学概論・臨床論で活用することができるようにする。			
学習の到達目標	指定された経穴を正確に取り、そこに し、患者の病態に応じた選穴を考えら		また、要穴や特効穴の知識を活用	
学習方法・学習上の注意	配布したプリントの整理			
関連科目	①伝統医学概論:経絡経穴学は、伝 ②伝統医学臨床論:病態に応じた選 ③実技各種:病態に応じた選穴をし、 術が必要となる	穴には、経絡経穴学の知	口識が必要となる	
持参物	配布プリント。3色以上の蛍光ペン。ノ	/ート。5mmのカラーシール	,	
講義計画		講義内容		
1~2	①経絡経穴の基礎 ②正経十二経脈	Ŕ		
3~6	督脈の流注、経穴			
7~9	任脈の流注、経穴			
10~12	肺経の流注、経穴			
13~14	大腸経の流注、経穴			
15~17	胃経の流注、経穴	胃経の流注、経穴		
18~19	脾経の流注、経穴			
20	心経の流注、経穴			
21~22	小腸経の流注、経穴			
23~25	膀胱経の流注、経穴			
26~28	腎経の流注、経穴			
29	心包経の流注、経穴			
30~31	三焦経の流注、経穴			
32~34	胆経の流注、経穴			
35~36	肝経の流注、経穴			
37	要穴(特定穴)について			
38	難経六十九難の取穴			
39	①奇穴 ②よく知られている経穴の約	組み合わせ		
40	①衝脈の流注 ②帯脈の流注 ③	]陽蹻脈の流注		
41	①陰蹻脈の流注 ①陽維脈の流注	③陰維脈の流注		
42	①督脈(『素問』骨空論編)の流注	②『霊枢』営気篇の中の	任脈	
43	①経筋(十二経筋) ②十五絡脈 ③	)十二経別、十二皮部		
44	①要穴の復習 ②奇経八脈のまと	め		
45	重要ポイント確認と解説			
成績評価の方法と基準	評価方法:小テスト①~⑤80%、学習意欲(出席状況を含む)20% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。			
使用テキスト	『新版 経絡経穴概論』: 東洋療法学校	『新版 経絡経穴概論』:東洋療法学校協会		
参考文献	『臨床経絡経穴図解 第2版』: 医歯薬 『針灸学 経穴篇』: 東洋学術出版社 『臨床経穴ポケットガイド361穴』: 医育 『ツボ単』: 株式会社エヌ・ティー・エス その他、多数	<b></b> <b>車薬出版株式会社</b>		

科目名		 伝統医学概論 I	
担当教員	本間 雪絵 実務経験の有無及び経歴 鍼灸師として臨床現場に従事		
,,,	1年		
対象学年	·	開講学期	通年
単位数 ————————————————————————————————————	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	歴史的背景や哲学観をふまえ、東洋医学的な人体の解剖生理や病理について学ぶ。(医学体系の中で完成された考え方を理解することで、西洋医学と異なる部分や共通する部分を理解する。)		
科目の目標	東洋医学的な考えから人体の解剖生理とこれらによって生じた病状について説明することができるようになる。		
学習の到達目標	患者の病状について、東洋医学的な	観点から説明できるように	なる。
学習方法・学習上の注意	特有の漢字にルビをふる		
関連科目	伝統医学概論Ⅱ、経穴経絡概論、伝	統医学臨床論、鍼灸理論	Ⅰ、Ⅱ、医療概論
持参物	教科書、iPad、筆記用具、配布資料		
講義計画		講義内容	
1	オリエンテーション		
2	第1章 東洋医学の特徴		
3	東洋医学的な治療法		
4	  日本の東洋医学の現状		
5	   第3章 東洋医学の思想(天人合一思		
6			
7	第2章 生理と病理		
	精·気		
9	血・津液		
10			
	神		
11	大体における陰陽まとめ		
12	中間試験		
13			
14	第2章 蔵象学説【総論】		
15	肝・胆・奇恒の腑		
16	心・小腸・奇恒の腑		
17	脾•胃 		
18	肺·大腸		
19	腎·膀胱		
20	五臓の相互関係(心・脾・肝)		
21	五臓の相互関係(心・肺・脾)		
22	五臓の相互関係(肺・脾・腎)		
23	五臓の相互関係(脾・肝・腎)		
24	五臓の相互関係(肺・脾・肝)		
25	全身の気機		
26	経絡		
27	病因病機		
28	まとめ		
29	期末試験		
30	評価点検(復習・確認)		
成績評価の方法と基準	評価方法:筆記試験80%、授業内小テスト10%、学習意欲(授業態度)5%、出席状況5% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	┃ 『新版 東洋医学概論』 医道の	 の日本社	
参考文献	『東洋医学のしくみ』新星出版		
シワク州			

科目名	伝統医学概論Ⅱ		
担当教員	 		
対象学年 	2年 	開講学期 	前期 
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	古来より継承と発展を続けてきた、伝学び、それを踏まえて診断と治療方法 伝統医学 I で学習した哲学観や生理 行え、処方が行えるようにする。	へと結びつける。	
科目の目標	鍼灸師の根幹となる伝統医学の基礎 療方針の立案→施術の選択といった		
学習の到達目標	伝統医学 I で学習した哲学観や生理 行い、処方を行えるようにする。	・病証等を踏まえて診断	論を学ぶ。それを基に弁証論治を
学習方法・学習上の注意	伝統医学概論Iの知識の復習し、診	断と治療方法へ結びつけ	ける。
関連科目	経絡経穴概論では経絡流注の知識か 臨床論の科目を踏まえたうえで、各論		
持参物	iPad、筆記用具、教科書		
講義計画		講義内容	
1	オリエンテーション・東洋医学の診察法		
2	望診		
3	聞診		
4	問診		
5	切診		
6	復習		
7	中間試験		
8	評価点検(復習・確認)・弁証		
9	弁証		
10	弁証·治療法		
11	治療法		
12	治療法		
13	復習		
14	期末試験		
15	評価点検(復習・確認)		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。中間試験結果が60%未満の者には確認試験を行い、期末試験結果で60%未満の者には再試験を行う。		
使用テキスト			
参考文献			<del></del> _

科目名	病態生理			
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事	
———————————— 対象学年	3年	開講学期	前期	
単位数	演習 1単位	時間数	30時間	
科目の概要	病態生理では解剖・生理・病理学概論を基に代表的疾患の病態把握を行います。基礎を確認し病態を把握できる能力を確認します。			
科目の目標	1, 2年生で学習した各領域におけ 態把握を行う事が出来る、能力と			
学習の到達目標	解剖学、生理学、病理学概論、な 取り上げて講義を行い、診察・病態 とします。			
学習方法・学習上の注意	欠席した場合は出席日数について	こ、自己管理を行い注:	意するようにしてください。	
関連科目	解剖学、生理学、病理学概論、臨床医学総論			
持参物	教科書、配布プリント			
講義計画	講義内容			
1	導入、病態生理の基礎			
2	頭部			
3	<b>五</b> 五 五 百 百			
4	腰部			
5	下肢			
6		呼吸器		
7		消化器		
8	内分泌			
	評価方法:学習意欲(授業態度)60%、出席状況40%			
成績評価の方法と基準	評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。また授業態度が悪い、授業中の食事な どがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。			
使用テキスト	解剖学、生理学、病理学概論、臨床医学各論、臨床医学総論			
参考文献				

科目名	適応と鑑別		
担当教員	岩村英明·佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	他の科目で学習した疾患・症候についの把握ができる事により臨床力を高&		
科目の目標	代表な疾患の病態生理を理解し、類( るようにする。	以疾患との鑑別ができる。	ようにする。より病態の把握ができ
学習の到達目標	疾患それぞれの病態整理を理解し、特 身に付ける。	特徴的な所見を理解し鍼	灸の適応不適応を見極める能力を
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目	西洋医学全般及び東洋医学科目		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1.2	適応症・鑑別Ⅰ Ⅱ		
3•4	適応症・鑑別Ⅲ Ⅳ		
5	まとめ		
6.7	適応症・鑑別 V VI		
8•9	適応症・鑑別Ⅷ Ⅷ		
10•11	適応症・鑑別IX X		
12•13	適応症・鑑別XI XII		
14	まとめ		
15	復習、考査		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	授業プリント		
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)、解剖学(医歯薬出版株式会社)、病理学概論(医歯薬出版株式 会社)他必要に応じてお知らせします。		

科目名	鍼灸理論 I		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年生	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	鍼灸の歴史や、その施術で、項など	用いられる道具、	た施術に際しての注意事
科目の目標	鍼灸の道具の名称、扱い方 で実際に扱うための基礎を		・禁忌を学び、今後の実習
学習の到達目標	鍼灸を今後、安全・確実に行う 解する。鍼灸の適用・禁忌のみ		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。欠席した場合、友 人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。		
関連科目	鍼灸実技、東洋医学概論、経絡経穴概論、衛生学・公衆衛生学		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	概論~鍼の名称		
2	刺鍼の方式		
3	特殊鍼法		
4	灸	な術の基礎~灸術の種類	
5	鍼灸	の適応症~鍼療法の過	誤
6	鍼療法の過誤~灸療法の過誤		
7	感染症対策		
8	期末テスト		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。期末試 験結果で60%未満の者には再試験を行う。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠 席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	はりきゅう理論:医道の日本社、配布プリント		
参考文献	はりき	ゆう実技:医道の日	 本社

科目名	鍼灸理論Ⅱ		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	鍼灸の治療効果とそのメカニズムを	学習する。	
科目の目標	治効・作用機序を、解剖・生理・病理を	を基礎として学習し理解す	<b>⁻</b> る。
学習の到達目標	国家試験のはり理論(10問)・きゅうう 学習し最低限の知識は習得する。	理論(10問)と最も関わる	重要で部分であるため、しっかりと
学習方法・学習上の注意	根気よく学習を進める		
関連科目		解剖学・生理学・病理学	
持参物		対書、ノート、筆記用具	
講義計画			
1	ガイダンス、1年時の復習 I		
2~3	1年時の復習Ⅱ		
4~5	1年時の復習皿		
6~7	1年時の復習㎞		
8~9	鍼灸治効の基礎 I		
10~11	鍼灸治効の基礎 Ⅱ		
13	鍼灸治効の基礎まとめ		
14	中間テスト		
15	鍼灸療法の一般治効理論 Ι		
16			
17	鍼灸療法の一般治効理論Ⅲ		
18			
19~20	 関連学説 Ⅰ		
21~22	関連学説Ⅱ		
23	総まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『はりきゅう理論』医道の日本		
参考文献	『生理学』医師薬出版		

科目名	体表観察		
担当教員	御書隆之 実務経験の有無及び経歴 鍼灸師として臨床現場に従事		鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年生	開講学期	通年
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	体表より触診することができるランドマ 以外に、経穴の確認なども行う。	・ ?ークの実技学習を行う。	また、解剖学的ランドマークの確認
科目の目標	身体の代表的な部位を体表解剖で理 きる。	解し、部位名およびその	部位がどこなのかを示すことがで
学習の到達目標	1. 下肢の代表的なランドマークを触察 2. 上肢の代表的なランドマークを触察 3. 体幹部の代表的なランドマークを無	察により適切に捉えること	が出来るようになる。
学習方法・学習上の注意	教員のデモンストレーション後2人ない 体表にマーカーなどでスケッチする。 <sup>-</sup>	トし3人1組となり、触察に 予習復習はしっかり。忘れ	よりランドマークを確認し、実際に 1物をしないこと。
関連科目	解剖学、経絡経穴概論		
持参物	教科書(解剖学、経絡経穴概論)、鍼灸道具一式、マーカー(水性)		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2~4	膝・下腿の体表解剖(骨・筋・経穴)		
5 <b>~</b> 7	上肢帯・上腕の体表解剖(骨・筋・経穴)		
8~10	前腕	頭の体表解剖(骨・筋・経り	(7
11~13	体幹部	部の体表解剖(骨・筋・経	穴)
14	試験		
15	試験		
成績評価の方法と基 準	評価方法:試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト			
参考文献			

科目名	症例検討		
担当教員	岩村英明·佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	過去の症例問題等を読み込み臨床に る。	- -必要な知識及び国家試	験合格に必要な知識を身に付け
科目の目標	代表疾患の病態を理解し、適不適の	判断と類似疾患との鑑別	ができるようにする。
学習の到達目標	過去に出題された症例について十分	な理解と知識を身につけ	<b>る</b> .
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目	西洋医学全般及び東洋医学科目		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1.2	症例検討Ⅰ Ⅱ		
3•4	症例検討Ⅲ Ⅳ		
5	まとめ		
6•7	症例検討V VI		
8•9	症例検討VII VIII		
10-11	症例検討区 X		
12·13	症例検討XI XII		
14	まとめ		
15	復習、考査		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	授業プリント		
参考文献	臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)東洋医学臨床論(株式会社医道の日本社)他、必要に応じてお知らせします。		

科目名		伝統医学臨床論	
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として 医療現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	伝統医学概論 I・Ⅱ、臨床医学総論、 鍼灸現場で多い疾患を中心に疾患の		ご基礎知識や診断方法を基に日本の
科目の目標	各疾患が伝統医学の観点からどのよ	うな病理で起こっている。	かを理解し、その治療方針を学ぶ。
学習の到達目標	患者が訴える症状からその病態を推	測し、どの治療方針が最	適であるかを決められるようにする。
学習方法・学習上の注意	配布したプリントおよび伝統医学概論	iの基礎知識の復習	
関連科目	解剖学 I・Ⅱ・Ⅲ、生理学 I · 応用実技 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅰ	・Ⅱ・Ⅲ、伝統医学概論 I Ⅳ、臨床医学総論、臨床	
持参物			
講義計画		講義内容	
1~3		伝統医学概論復習	
4~5		徒手検査法復習	
5 <b>~</b> 6	徒手検査法		
7	治療原則		
8~9	治療法		
10~13	整形外科疾患の症候・症例		
13~16		不定愁訴の症候・症例	
17~19		胸部・腹部の症候・症例	
20~22	泌	尿器・生殖器の症候・症	例
23~30	各種症候・症例の復習		
成績評価の方法と基準	評価方法:期末試験(70%)、授業内小テスト(20%)、授業態度(5%)、出席状況(5%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未 満)とする。		
使用テキスト	配布プリント		
参考文献	『東洋医学臨床論(はりきゅう編)』: 東洋療法学校協会 『東洋医学概論』: 東洋療法学校協会 『針灸学 基礎編』: 東洋学術出版社 『針灸学 臨床篇』: 東洋学術出版社 『図説 東洋医学 基礎編』: 株式会社 学習研究社 など		

科目名	文献閱読			
担当教員	渡邉 真弓	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師とし て医療現場に従事	
対象学年	2年	開講学期	前期	
単位数	講義 1単位	時間数	15時間	
科目の概要	現代医学と伝統医学(鍼灸などる点である。それ故、東アジア 中心として閲読をおこなう。教	文化圏独特の哲学に	に親しむべく現代中国文献を	
科目の目標	中国古典・現代中国語は外 英語に近い。文章嫌いになる を身につける。時間に余裕が	らず、辞書を使って	自分なりに読み解く能力	
学習の到達目標	漢和辞典・中国語の辞書などで	を使い、外国語文献の	の大意を把握できる。	
学習方法・学習上の注意	辞書を忘れないように			
関連科目	中国語			
持参物	中日辞典など			
講義計画	講義内容			
1	中国語辞典の使い方・気虚について・文化素養1			
2	中国語辞典の使い方・血虚について・文化素養2			
3	陽虚・陰虚について・文化素養3			
4	臓腑弁証について・文化素養4			
5	臓腑間弁証について・文化素養5			
6	日本文献について			
7	長文中国語文献			
8	まとめ・テスト			
	平常点40%、口頭試問(小テストを含む)30%、試験30%			
使用テキスト	王財源著「わかりやすい 臨床中医実践弁証トレーニング 第2版」・プリント			
参考文献	「わかりやすい臨床中医診断学第2版」「わかりやすい臨床中医臓腑学第3版」			

科目名	文献閱読			
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事	
対象学年	1年	開講学期	前期	
—————————————————————————————————————	講義 1単位	時間数	15時間	
科目の概要	鍼灸学校や鍼灸の教育制度、 的に学習する。	最低限の法規、世界	<b>早の現状、学会の現状を客観</b>	
科目の目標	日本の鍼灸業界、世界の鍼灸 現状を学ぶ。また、情報収集の			
学習の到達目標	業界について鍼灸師以外の人 から情報収集できるようになる		なる。また、書籍や雑誌など	
学習方法・学習上の注意				
関連科目	関係法規			
持参物	中日辞典など			
講義計画	講義内容			
1	鍼灸の資格・法律 I			
2	鍼灸の資格・法律Ⅱ			
3	鍼灸の資格・法律Ⅱ、保険制度			
4	保険制度、柔道整復業界の現状・制度			
5	鍼灸の教育制度、海外の現状			
6	海外の現状、鍼灸学会・業団体			
7	まとめ、レポート課題について	まとめ、レポート課題について		
8	レポート作成			
成績評価の方法と基準	レポート評価(90%)、授業態度・出席状況(10%)			
使用テキスト	プリントを配布する			
参考文献	医道の日本			

科目名	伝統医学史			
担当教員	渡邉 真弓     実務経験の有無及び経歴			
対象学年	3年生	開講学期	前期	
単位数	講義 1単位	時間数	15時間	
科目の概要	現在行われている鍼灸が過去におけ のあはきの歴史的変遷について学習		に基づいているのか、中国と日本	
科目の目標	あはきの歴史を学ぶことで当時の鍼タ しい知識・理解を得る。	をを行っていた人たちの心		
学習の到達目標	在学時はもちろん、資格取得後、臨床 て対応できる知識を養う。	の場面において患者様	は地域の人々の質問に自信をもつ	
学習方法・学習上の注意	漢字や専門用語が多いですが、教養	溢れる鍼灸師になるため	慣れましょう。	
関連科目	文献閲読、鍼灸理論			
持参物	文献閲読同様、辞書をお持ちください	0		
講義計画		講義内容		
1	あはきの歴史 中国編(1)			
2	あはきの歴史 中国編(2)			
3	あはきの歴史 中国編(3)			
4	あはきの歴史 中国編(4)			
5	あはきの歴史 中国編(5)			
6	あはきの歴史 日本編(1)			
7	あはきの歴史 日本編(2)			
8	あはきの歴史 まとめ			
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未 満)とする。			
使用テキスト	文献閲読の王財源先生の本の一部を使用します。それ以外の資料は随時用意する。			
参考文献	随時、紹介する。			

			•
科目名	就職実務		
担当教員	本間 雪絵	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年生	開講学期	後期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	求職登録の仕方、ビジネスマナーの習	習得、就職活動への流れ	を理解する。
科目の目標	求職登録		
学習の到達目標	求職登録をし、就職活動を円滑に行え	えるようになる	
学習方法・学習上の注意	自分の考えをアウト・プットし、より明確	寉にしていく。他の人の話	を聴く傾聴の訓練と意識する。
関連科目			
持参物	iPad、筆記試験		
講義計画	講義内容		
1	就職活動の流れ		
2	ビジネスマナー		
3	志望動機を考える		
4	自己PRを考える		
5	理想の鍼灸師像を考える		
6	履歴書を書いてみる		
7	模擬面接		
8	求職登録面接		
成績評価の方法と基準	授業内のそれぞれのテーマごとに対して評価(40点)、模擬面接60点の100点 満点で評価する。授業態度、出席を加味(欠席:減点3、遅刻:減点1)60点未満 は再試験を実施。		
使用テキスト			
参考文献	マイナビHPhttps://job.mynavi.jp/ ビジネス文書&マナー大事典 学研		

科目名	医学補完 I			
担当教員	専任教員で分担	実務経験の有無及び経歴		
対象学年	1年生	開講学期	通年	
単位数	講義 2単位	時間数	30時間	
科目の概要	オリエンテーションおよび解剖学・生理 講義を行う	閏学・伝統医学概論・経絡	経穴概論など各科目の補完として	
科目の目標	モチベーションを高めるとともに、1年2	欠の科目の補完を行い、	知識を定着させる	
学習の到達目標	各科目の重要ポイントをおさえる 違う科目であっても共通する分野の知	1識を関連付ける		
学習方法・学習上の注意	1年次の各科目の復習をしっかり行う			
関連科目	解剖学、生理	<b>皇学、伝統医学概論、経</b> 絡	各経穴概論	
持参物		教科書		
講義計画	講義内容			
1~4	オリエンテーション			
5 <b>~</b> 8	解剖学			
9~11	生理学			
12~13	伝統医学概論			
14~15	経絡経穴概論			
成績評価の方法と基準	評価方法:レポート及び提出物(60%)、授業態度(20%)、出席状況(20%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未 満)とする。			
使用テキスト	解剖学: 医歯薬出版株式会社 生理学: 医歯薬出版株式会社 新版 東洋医学概論: 医道の日本社 新版 経絡経穴概論: 医道の日本社			
参考文献				

科目名	医学補完Ⅱ			
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴		
対象学年	2年	開講学期	通年	
単位数	講義 1単位	時間数	15時間	
科目の概要	オリエンテーションおよび、東洋医学、	西洋医学各科目の補完	として講義を行う	
科目の目標	1年次の復習と2年次の科目の補完を	と行い、知識を定着させる	5	
学習の到達目標	各科目の重要項目の確認と知識の定着			
学習方法・学習上の注意	各授業の復習をしっかり行う			
関連科目	解剖学・生理学・伝統医学概論・経絡経穴概論・運動学・病理学・臨床医学総論・臨床医学各論・ リハビリテーション医学・鍼灸理論			
持参物		教科書		
講義計画	講義内容			
1	オリエンテーション			
2~4	専門基礎分野及び専門分野の補完(東洋医学系科目)			
5~8	専門基礎分野及び専門分野の補完(西洋医学系科目)			
成績評価の方法と基準	評価方法:レポート及び提出物(60%)、授業態度(20%)、出席状況(20%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未 満)とする。			
使用テキスト	配布プリント及び各科目教科書(事前に指示する)			
参考文献	解剖学(医歯薬出版株式会社)・生理学(医歯薬出版株式会社)・東洋医学概論(株式会社医道の日本)・経絡経穴概論(株式会社医道の日本)・運動学(医歯薬出版株式会社)・病理学(医歯薬出版株式会社)・臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)・臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)・リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)・鍼灸理論(株式会社医道の日本)			

科目名	医学補完Ⅲ			
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴		
対象学年	3年	開講学期	通年	
単位数	講義 1単位	時間数	90時間	
科目の概要	国家試験主要科目の復習を行う。			
科目の目標	国試頻出範囲の復習を行い、確認	実な知識の習得を目指	' इं .	
学習の到達目標	国家試験主要科目における、知識定着。			
学習方法・学習上の注意	体調管理をしっかりとし、授業に出席する。苦手科目の者は克服するように、得意科目 の者はより得点率を上げられるように復習をしっかり行う。			
関連科目	経絡経穴概論・解剖学・生理学・伝統医学概論			
持参物	筆記用具・必要に応じて教科書や配布プリント等			
講義計画	講義内容			
1~2	オリエンテーション(国家試験合格に向け自己分析、目標設定 等)			
3~8		国家試験対策		
成績評価の方法と基準	評価方法:レポート・課題提出60%、出席率20%、授業態度20%で評価する。 評価基準:学則により、A(80点以上)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)とする。			
使用テキスト	経絡経穴概論(医道の日本社) 解剖学第2版(医歯薬出版) 生理学第3版(医歯薬出版) 新版東洋医学概論(医道の日本社)			
参考文献				

科目名	特別授業 I		
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年生	開講学期	前期
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	3年次における国家試験対策を主とすめとする。 特別授業 I では基礎科目対策を主と		や習し、3学年に渡る学習の総まと
科目の目標	基礎科目知識を定着させ、他科目知識	識の理解と定着へとつな	げる。
学習の到達目標	各科目の重要ポイントをおさえる。 違う科目であっても共通する分野の知	口識を関連付ける。	
学習方法・学習上の注意	国家試験対策という事もあり、基本的 むようにしっかりと復習をしておく。	には過去に行った内容の	)復習になるので、授業が円滑に進
関連科目	解剖学、生理学、何	云統医学概論、経絡経穴	概論、鍼灸理論
持参物			
講義計画	講義内容		
1~30	●国家試験対策 - 岩村7コマ - 本間5コマ - 大槻4コマ - () 本書4コマ - () () () () () () () () () () () () ()		
成績評価の方法と基準	評価方法:期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未 満)とする。		
使用テキスト	解剖学: 医歯薬出版株式会社 生理学: 医歯薬出版株式会社 新版 東洋医学概論: 医道の日本社 新版 経絡経穴概論: 医道の日本社 はりきゅう理論: 医道の日本社		
参考文献			

科目名	対策授業Ⅱ			
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴		
対象学年	3年	開講学期	後期	
単位数	講義 5単位	時間数	75時間	
科目の概要	3年次における国家試験対策を主とすとする。特別授業Ⅱでは臨床医学の₹		習し、3学年に渡る学習の総まとめ	
科目の目標	特別授業Iで定着させた基礎科目知による知識定着を図る。	識をもとに、臨床医学にる	おける病態や所見について関連付け	
学習の到達目標	各科目の重要ポイントをおさえる。 違う科目であっても共通する分野の知	識を関連付ける。		
学習方法・学習上の注意	国家試験対策という事もあり、基本的 むようにしっかりと復習をしておく。その			
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論 I、臨床医学各論 I、臨床医学各論 I、以ハビリテーション医学、 伝統医学臨床論、公衆衛生学、病理学概論			
持参物	筆記用具、配布プリント			
講義計画	請義内容			
1~38	●国家試験対策 ・岩村6コマ ・本間6コマ ・大槻6コマ ・御書8コマ ・佐々木6コマ ・角田6コマ			
成績評価の方法と基準	評価方法:期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未 満)とする。			
使用テキスト				
参考文献				

科目名	総合実技			
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴		
対象学年	3年	開講学期	後期	
単位数	実技 1単位	時間数	30時間	
科目の概要	3年間学んできた各実技科目の知識・	技術の統合を行う。		
科目の目標	経絡経穴実技や解剖学、体表観察で うにする。	学んだことを統合させ、ノ	人体を多角的に見ることが出来るよ	
学習の到達目標	主要経穴の取穴位置を覚える。またそ	その経穴の局所解剖につ	いて覚える。	
学習方法・学習上の注意	体表に経穴の位置や筋肉・神経走行などを描き、それらを立体的に考え、覚える。			
関連科目	経絡経穴概論、経絡経穴実技 I、経絡経穴実技 II、解剖学III、体表観察			
持参物				
講義計画	講義内容			
1~5	下肢の取穴及び体表解剖			
6 <b>~</b> 10	上	肢の取穴及び体表解剖		
11~15		幹部の取穴及び体表解剖	H)	
成績評価の方法と基準	評価方法:レポート及び提出物60%、出席率20%、授業態度20%で評価する。 評価基準:学則により、A(80点以上)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)とする。			
使用テキスト				
参考文献	新版 経絡経穴概論(医道の日本社) 解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社)			

科目名	総合医学演習			
担当教員	専任教員実務経験の有無及び経歴			
対象学年	3年	開講学期	後期	
単位数	演習 1単位	時間数	30時間	
科目の概要	症例報告や問題演習等、3年間で学んできた知識の統合と演習を行う。 演習科目の為、知識の確認と修正を中心とする。			
科目の目標	専門知識が定着している事を確認しん	が用できるようにする。		
学習の到達目標	各科目の基礎知識が身についている 専門知識が定着しており、演習に活か	。 ゝすことができる。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持参すること。			
関連科目	各專	門基礎分野及び専門分	野	
持参物	配布	「プリント、ノート、筆記用:	<u> </u>	
講義計画		講義内容		
1	導入			
2	演習 I			
3	演習Ⅱ			
4	演習Ⅲ			
5	演習Ⅳ			
6	演習Ⅴ			
7	まとめと復習			
8	確認とフィードバック			
9	 演習Ⅵ			
10	 演習Ⅶ			
11	演習Ⅷ			
12	演習区			
13	演習X			
14	まとめと復習			
15				
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。			
使用テキスト	授業プリント			
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)、解剖学(医歯薬出版株式会社)、臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)、東洋医学臨床論(株式会社 医道の日本社)、経絡経穴概論(株式会社 医道の日本社)			

科目名	鍼灸実技 I			
担当教員	本間 雪絵、岩村 英明 実務経験の有無及び経歴 鍼灸師として臨床現場に従事			
対象学年	1年	開講学期	通年	
単位数	実技 5単位	時間数	150時間	
科目の概要	本間:施術者としての心構え、身た 基本的な刺鍼方法、施灸方法 岩村:四肢の経穴の取穴及び刺鍼・	t。各ランドマークを正	確にとる。 (講義計画1~40)	
科目の目標	消毒法から、施鍼・施灸までの各動 また各施術を安全に効率的かつ適度	.,,		
学習の到達目標	身だしなみチェック表、衛生チェック表を用いて常に清潔な状態を保つことができる。 各ランドマークの位置及び経穴の取穴位置を覚える。 狙った刺入角度・深度通り、スムーズに刺鍼することが出来る。 適切な刺激強度でスムーズに施灸することが出来る。			
学習方法・学習上の注意	人体に対する施術が主となるので、	内出血や火傷などのリ	スク管理に注意する。	
関連科目		. 概論、経絡経穴実技、 既論、臨床基礎実習、既		
持参物				
講義計画	講義内容			
1	道具の確認および	び使い方、身だしなみ、	衛生チェック	
2	管鍼法、刺鍼練習(直刺)、挿管法			
3	艾の捻り方、線香の持ち方、点火方法			
4	刺鍼練習(直刺、斜刺、横刺)			
5	施灸練習(紙、竹)			
6	十七手技、人体刺鍼			
7	施灸練習(紙、竹)			
8	十七手技、撚鍼法			
9	施到	<b>灸練習(紙、竹、人体)</b>		
10		経過チェック		
11~20		刺鍼練習、施灸練習		
21		経過チェック		
22		温灸(棒灸、隔物灸)		
23~26		刺鍼練習、施灸練習		
27~28		経過チェック		
29~30		刺鍼、施灸の復習		
31	上肢-三陰経	上肢-三陰経・三陽経ランドマーク(骨指標)		
32~33	上肢-3	三陰経・三陽経ランド、	マーク	
34	体幹部	体幹部ランドマーク(骨指標)		
35	体幹部・頭部ランドマーク			
36	下肢-三陰経・三陽経ランドマーク(骨指標)			
37~38	下肢-三陰経・三陽経ランドマーク			
39	復習			
40	経過チェック			

41	オリエンテーション	
42~43	取穴・刺鍼・施灸練習(犢鼻・足三里・豊隆)	
44~45	取穴・刺鍼・施灸練習(陽陵泉・懸鐘・中都)	
46~47	取穴・刺鍼・施灸練習(三陰交・築賓)	
48~49	取穴・刺鍼・施灸練習(陰陵泉・地機)	
50~51	取穴・刺鍼・施灸練習(血海・梁丘)	
52~53	取穴・刺鍼・施灸練習(委中・承山・崑崙)	
54~55	取穴・刺鍼・施灸練習(公孫・太衝・足臨泣)	
56	復習	
57~58	経過チェック	
59~60	取穴・刺鍼・施灸練習(尺沢・曲沢)	
61~62	取穴・刺鍼・施灸練習(曲池・手三里)	
63~64	取穴・刺鍼・施灸練習(陽渓・偏歴)	
65~66	取穴・刺鍼・施灸練習(陽池・外関)	
67~68	取穴・刺鍼・施灸練習(内関・郄門)	
69~70	取穴・刺鍼・施灸練習(太淵・神門)	
71~72	取穴・刺鍼・施灸練習(合谷・魚際)	
73	復習	
74~75	期末試験	
成績評価の方法と基準	評価方法:期末試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。	
使用テキスト	教科書(はりきゅう実技<基礎編>、経絡経穴概論)	
参考文献	経穴インパクト(株式会社医道の日本社) 運動・からだ図解 経絡・ツボの基本(株式会社マイナビ) はり入門(株式会社医道の日本社)	

科目名	鍼灸実技Ⅱ		
担当教員	岩村 英明、角田 朋之、大槻 健吾 実務経験の有無及び経歴 鍼灸師として臨床現場に従事		
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実技 5単位	時間数	150時間
科目の概要	石村: 頭頸部や体幹部の経穴に対し刺鍼・施灸の練習を行なつ。また1年次に行った 四肢への刺鍼・施灸練習も行う。(講義計画1~30) 角田: 四肢や体幹部の経穴に対し中国鍼の刺鍼・灸頭鍼の練習を行なう。 (講義計画31~40) 大槻: 1年時に修得した刺鍼技術を用いて低周波鍼通電療法を筋肉に対して行う。 (講義計画41~75)		
科目の目標	1年次で学んだ基本技術を円滑に で3年次の臨床実習の現場に立て		
学習の到達目標	1. 頭部や体幹部に対し、安全 行った上下肢に対する刺鍼     2. 四肢や体幹部に対し、安全     3. 上下肢筋の起始・停止・作り覚える。     4. 基本的な刺鍼技術を向上され	・施灸も引き続き安全に に中国鍼の刺鍼・灸頭釒 用・支配神経、低周波釒	に行えるようにする。 城が行えるようになる。 城通電療法の作用・禁忌を
学習方法・学習上の注意		行えるようにする。体草	全部への刺鍼は気胸の恐れがある
関連科目	鍼灸理論、経絡経穴概論、経絡経穴実技、解剖学、生理学、 伝統医学概論、臨床基礎実習、臨床実習		
持参物	タブレット端末、教科書(経絡経	至穴概論)、鍼灸道具一	式、筆記用具、クリップボード
講義計画		講義内容	
1	導入、頸部の刺鍼(完骨、翳風)		
2	頸部の刺鍼(風池、天柱)		
3~4	肩部の刺鍼、施灸(肩井、天髎、巨骨)		
5~6	肩部の刺鍼、施灸(肩貞、天宗、秉風)		
7~8	上下肢の刺鍼、施灸(合谷、足三里、太衝、三陰交)		
9~10	背部の刺鍼、施灸(風門、肺兪、心兪)		
11~12	背部の刺鍼、施灸(膈兪、肝兪、脾兪)		
13~14	上下肢の刺鍼、施灸(陽陵泉、陰陵泉、内関、公孫)		
15~16	腰部の刺鍼、施灸(腎兪、命門、志室)		
17~18	腰部の刺鍼、施灸(腰陽関、大腸兪)		
19~20	胸腹部	の刺鍼、施灸(中府、ヲ	(枢)
21~22	腹部の刺	鹹、施灸(巨闕、中脘、	関元)
23~24	腹部の	)刺鍼、施灸(梁門、章	門)
25	顔面部の刺	l鍼(下関、攅竹、聴会	、四白)
26	頭部の刺	鹹(百会、頭維、顖会、	正営)
27~28		復習	
29	á	経過チェック(刺鍼)	
30	į,	経過チェック(施灸)	
31	下肢	の灸頭鍼(足三里、豊隆	≩)
32	F	技の刺鍼 (飛揚、跗陽)	
33	上肘	もの灸頭鍼(外関、会宗	)
34	上月	技の刺鍼(列欠、孔最)	
35	腰部	の灸頭鍼(腎兪、大腸兪	ѝ)
36	腹部の	)刺鍼(関元、中脘、天	枢)
37	腹部の領		(枢)
38		復習	
39	経過チェック(中国鍼)		
40	経過チェック(灸頭鍼)		

41	オリエンテーション(パルス療法の導入)
	L Point C Mark - Harry - Ha
42~43	上腕部の屈筋・伸筋に対するパルス療法
44	前腕部の伸筋群に対するパルス療法
45	前腕部の屈筋群に対するパルス療法
46~47	上肢の屈筋・伸筋に対するパルス療法
48~49	大腿部の屈筋・伸筋に対するパルス療法
50~51	下腿部の屈筋・伸筋に対するパルス療法
52~53	下肢の屈筋・伸筋に対するパルス療法
54~55	上肢・下肢の筋に対するパルス療法復習
56~57	中間チェック(上肢のパルス)
58~60	腰部の筋に対するパルス療法
61~63	肩背部の筋に対するパルス療法
64~72	上肢・下肢に対するパルス療法の復習
73~74	期末試験
75	まとめ
	評価方法:実技試験70%、小テスト10%、授業態度10%、出席状況10%
成績評価の方法と基準	評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・
	C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。
使用テキスト	鍼灸実技〈基礎編〉、経絡経穴概論、配布プリント
	経穴インパクト(株式会社医道の日本社)
<del>** * * * **</del>	運動・からだ図解 経絡・ツボの基本 (株式会社マイナビ)
参考文献	はり入門(株式会社医道の日本社)
	『鍼灸療法技術ガイド』(文光堂)

科目名	経絡経穴実技 I			
担当教員	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
			臨床現場に従事	
対象学年 	1年	開講学期 	後期	
単位数 	実技 1単位	時間数	30時間	
科目の概要	経絡経穴概論の学習と合わせながら マーク部位を具体的に触れながら、取		。特に解剖学で学習した人体のランド	
科目の目標	経絡経穴概論では十四経脈を各経脈 三陰・三陽経を中心に、複数の経脈を そこから同じ高さにある経穴や、経脈	日時に取穴する。		
学習の到達目標	臨床では一つの経脈のみの使用では 同時に使えるようにする。	は治療が成立しにくい。従	って、本科目を通じて複数の経脈を	
学習方法・学習上の注意	三陰・三陽経の走行部位を、蛍光ペン	ンで人体に書いてみて位i	置関係を理解する。	
関連科目	①経絡経穴概論:この科目を基礎とする ②実技各種:病態に応じた選穴をし、そこに施術するためには、その経穴を取るための知識・技術 が必要となる			
持参物	配布プリント。3色以上の蛍光ペン。5㎜のカラーシール			
講義計画	講義内容			
1	背部ー督脈(八髎穴)と奇穴の取穴	背部ー督脈(八髎穴)と奇穴の取穴		
2~4	背部ー督脈・膀胱経・小腸経の取穴			
5 <b>~</b> 6	腹部一任脈・胃経・腎経・脾経の取穴			
7~8	前腕-三陰経・三陽径の取穴			
9~10	下腿-三陰経・三陽径の取穴			
11~14	前腕と下腿ー三陰経・三陽径の取穴			
15	実技試験			
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。			
使用テキスト	『新版 経絡経穴概論』: 東洋療法学校協会			
参考文献				

科目名	経絡経穴実技Ⅱ			
担当教員	佐藤 徳昭 実務経験の有無及び経歴 鍼灸あん摩マッサージ指圧師とし 臨床現場に従事			
対象学年	2年	開講学期	後期	
単位数	実技 1単位	時間数	30時間	
科目の概要	これまでに学んできた経絡経穴学の気			
科目の目標	経絡経穴概論で学んできた経穴を、ス	スムーズに、かつ正確に関	収穴できるようにする。	
学習の到達目標	正穴や奇穴、または特殊な経穴の組 できるようにする。	合せ(難経六十九難など	)を熟知した上で、臨床の現場で活用	
学習方法・学習上の注意	経絡経穴実技 I の復習から始まり、糺 く。	<b>圣絡経穴概論で学んだ経</b>	穴を各部位ごとに別けて取穴してい	
関連科目	①経絡経穴概論:この科目を基礎とす ②実技各種:病態に応じた選穴をし、 必要となる		、その経穴を取るための知識・技術が	
持参物	配布プリント。3色以上の蛍光ペン。5г	nmのカラーシール		
講義計画		講義内容		
1	前腕ー三陰経の取穴(奇穴を除く)	前腕-三陰経の取穴(奇穴を除く)		
2	前腕-三陽経の取穴(奇穴を除く)			
3	下腿一三陰経の取穴(奇穴を除く)			
4	下腿-三陽経の取穴(奇穴を除く)			
5~6	背部ー督脈・膀胱経・小腸経・奇穴の取穴			
7	腹部一任脈・胃経・脾経・腎経・奇穴の	D取穴		
8~9	①頭部の正穴の取穴(督脈・前額部横並びの穴の復習) ②顔面部の正穴の取穴 ③頸部の正穴の取穴 ④頭頸部、上肢部、下肢部の奇穴の取穴			
10~13	①難経六十九難 ②八会穴 ③四総	穴 ④下合穴 ⑤八脈交	会穴 ⑥奇穴	
14	実技試験			
15	取穴実技とポイントおよび解説			
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。			
使用テキスト	『新版 経絡経穴概論』: 東洋療法学校協会			
参考文献				

科目名	手技実技 I			
担当教員	大槻健吾 実務経験の有無及び経歴 鍼灸あん摩マッサージ指圧師として 臨床現場に従事			
対象学年	1年生	開講学期	後期	
単位数	実技1単位	時間数	30時間	
科目の概要	マッサージやあん摩の基礎理語 診、および経絡(または経穴)なまたここでの学習を通し施術が	よどについて、徒手手	技を通して学習する。	
科目の目標	筋肉の触り方と同時に、その部 一助となるようにする。	3位に存在する経絡な	を意識することで、鍼灸臨床の	
学習の到達目標	他人の体への触り方に慣れる。 の感覚と持久力を養い、身体3		習することで施術に必要な手指 スよくできるようにする。	
学習方法・学習上の注意	手技を施す際の姿勢、力の入っまた、筋や経絡の位置の理解で 適宜小テストを行うため解剖学	を深める。	夏習・予習を行うこと	
関連科目	各種実技、解剖学、経絡経穴概論			
——————————— 持参物	配布プリント、手拭いまたはタオル			
講義計画	講義内容			
1	オリエンテーション			
2	基本手技 (軽擦法、揉捏法)			
3	基本手技 (圧迫法、叩打法)			
4	基本手技(振せん法、曲手)			
5	基本手技 (復習)			
6	背部指圧①			
7	背部指圧②			
8		上肢あん摩①		
9		上肢あん摩②		
10		下肢マッサージ①		
11		下肢マッサージ②		
12		吸角療法		
13		実技復習		
14		期末試験 (前半)		
15		期末試験 (後半)		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験70%、小テスト10%、授業態度10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。			
使用テキスト	プリント			
参考文献	『あん摩マッサージ	指圧実技』(基礎編)	:東洋療法学校協会	

科目名	手技実技Ⅱ		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として 臨床現場に従事
対象学年	2年生	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	鍼灸施術する際の基本的な筋肉の触て学習する。またここでの学習を通し		
科目の目標	筋肉の触り方と同時に、その部位に存る。	存在する経絡を意識する	事で、鍼灸臨床の一助となるようにす
学習の到達目標	他人の体への触り方に慣れる。基本 = を養い、身体全体の施術をバランスよ		で施術に必要な手指の感覚と持久力
学習方法・学習上の注意	手技を施す際の姿勢・力の入れ具合	に注意する。また、筋や網	<b>圣絡の位置の理解を深める。</b>
関連科目	解剖学•紹	<b>経経穴概論・鍼灸実技・</b>	臨床実習
持参物		配布プリント・筆記用具	
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・基本手技の確認		
2~5	背部・上肢・下肢に対する手技・経絡・経穴の確認		
6~7	フェイスマッサージ		
8~9	リフレクソロジー		
10~11		トリガーポイント	
12~13		モビライゼーション	
14	まとめ		
15	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未 満)とする。		
使用テキスト	配布プリント		
参考文献	『あんまマッサージ指圧理論』: 東洋療法学校協会 『鍼療法図鑑普及版』: ガイアブックス 『ノンスラストによる関節モビライゼーション』: 緑書房		

科目名	身	長容スポーツ各種鍼灸		
担当教員	本間 雪絵、角田 朋之、御書 隆之 実務経験の有無及び経歴 鍼灸師として臨床現場に従事			
対象学年	3年	開講学期	後期	
単位数	実技 1単位	時間数	30時間	
科目の概要	鍼灸における専門分野の治療法	や業界について学ぶ。		
科目の目標	各分野の治療方法や病態把握の 知る。	仕方など、同じ鍼灸と	いう領域の中での専門性を	
学習の到達目標	各専門分野の治療法を知り、体験	<b>食する。</b>		
学習方法・学習上の注意	専門分野のため、使用器具等の	扱いに注意し安全に実	習を行う。	
関連科目				
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)	・必要に応じて患部をは	出せるような服装	
=====================================		講義内容		
1~4	美容鍼灸			
5~6	不妊鍼灸			
7~8	開業鍼灸			
9~10	高齢者鍼灸			
11~15	スポーツ鍼灸			
16	箱灸			
17	皮内鍼			
18	月経困難			
19				
20	高血圧			
21	排尿障害			
22	特殊鍼灸(頭鍼)			
23	特殊鍼灸(手指鍼)			
24	特殊鍼灸(夢分流)			
25	特殊鍼灸(古代九鍼)			
26	特殊鍼灸(古代九鍼)			
27	特殊鍼灸(古代九鍼)			
28	経筋治療			
29	経筋治療			
30	評価点検・復習			
成績評価の方法と基準	評価方法:授業態度20%、出席率80%にて総合的に評価をする。 評価基準:学則に基づき、A(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以 上70点未満)・D(60点未満)とする。			
使用テキスト		なし		
参考文献		なし		

科目名	現代鍼灸検査実技			
担当教員	角田朋之 実務経験の有無及び経歴 鍼灸師として臨床現場に従事			
対象学年	2年	開講学期	後期	
単位数	実技 1単位	時間数	30時間	
科目の概要	病態把握のために必要な身体診察	及び理学検査について		
科目の目標	身体診察および理学検査の臨床意	「 「義や陽性所見を理解し、	. 行えるようにする。	
学習の到達目標	3年次の臨床実習にむけて、医療配基礎を身につける。	面接および身体診察から	病態把握ができる	
学習方法・学習上の注意	3年次の臨床実習にむけて、医療配 基礎を身につける	面接および身体診察から	病態把握ができる	
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論、リ 臨床実習、応用実技Ⅲ	ハビリテーション医学、		
持参物	筆記用具、配布プリント			
講義計画		講義内容		
1	オリエ	ンテーション/頸部の診	察法	
2	肩関節の診察法①			
3	肩関節の診察法②			
4	上肢深部腱反射、頸肩腕痛の診察法			
5	肘·前腕痛の診察法			
6	復習			
7	腰痛・腰下肢の診察、股関節痛の診察、下肢深部腱反射①			
8	腰痛・腰下肢の診	察、股関節痛の診察、下	肢深部腱反射②	
9		膝関節痛の診察①		
10		膝関節痛の診察②		
11		脳神経の診察		
12	病的反射、髓	莫刺激症状の検査、運動	失調の検査	
13~15	復習			
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。			
使用テキスト	関連科目教科書、配布プリント			
参考文献	鍼灸療法技術ガイド I 文光堂 徒手検査インパクト 医道の日本社			

科目名	伝統鍼灸診察実技			
担当教員	佐々木勇人 実務経験の有無及び経歴 鍼灸師として臨床現場に従事			
対象学年	2年	開講学期	後期	
単位数	実技 1単位	時間数	30時間	
科目の概要	鍼灸実技ⅠⅡで学習した内容	を基に、補瀉実技や	伝統医学的な診察術を学ぶ	
科目の目標	弁証論治が行えるように反復総	東習を通して一連の	流れを学習する	
学習の到達目標	3年次の臨床実習で、診察を行	fい病態把握が行え	るようにする	
学習方法・学習上の注意	医療過誤、事故に十分注意して行う。			
関連科目	東洋	华医学概論、経絡経穴概	<u></u>	
持参物	类	対書、ノート、筆記用具		
講義計画				
1	ガイダンス			
2	脈診・腹診・経穴反応			
3	脈診・腹診・経穴反応2			
4	症例1 要穴			
5	症例2 要穴			
6	症例3 要穴			
7	症例4 要穴			
8	脈診・腹診・経穴反応3			
9	艾の知識、灸の応用			
10	症例5 要穴			
11	症例6 要穴			
12	復習			
13	復習			
14	<del></del>			
15				
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験50%、筆記試験30%、レポート提出10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。			
使用テキスト	プリント配布の予定			
参考文献	東洋医学概論(医道の日本社)、経絡経穴概論(医道の日本社)			

科目名	現代鍼灸実技			
担当教員	御書隆之 実務経験の有無及び経歴 鍼灸師として臨床現場に従事			
対象学年	3年生	開講学期	通年	
単位数	実技 3単位	時間数	90時間	
科目の概要	現代医学的な知識および診察法! また、スムーズな治療が行えるよ		患における病態鑑別を行う。	
科目の目標	現代医学的な根拠を持った治療な	が行えるようになる。		
学習の到達目標	ペーパーペイシェントの自覚症状 ある治療法を行えるようになる。	および検査における所	見から病態鑑別を行い、根拠	
学習方法・学習上の注意	解剖学(特に骨格・神経系)におけ身に付けるよう努力する。	ける知識の確認を行い	、臨床実習で活かせる技術を	
関連科目	解剖学Ⅰ・リハビ	「リテーション医学・東洋	羊医学臨床論	
持参物	実技道具一式(学校配布の	)もの)・必要に応じて♬	患部を出せるような服装	
講義計画		講義内容		
		1. オリエンテーション		
		2. 肩こり		
		3. 変形性膝関節症		
		4. 腰痛(筋・筋膜性)		
	Ę	5. 腰痛(仙腸関節性)		
	6	6. 腰痛(椎間関節性)		
	7. 腰痛(急性筋性腰痛)			
	8. 腰痛(腰椎椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症)			
	9. 頚椎症			
	10. 肩関節周囲炎			
	11. 胸郭出口症候群			
	10 ht	12. テニス肘	<b>中本ない</b>	
	13. 膝疾息	∄(ランナー膝・ジャンパー 	- 膝寺 /	
		14. 野球肩·野球肘  15. 中間試験		
		16. アキレス腱炎		
		10. ナヤレヘ腱炎 17. 寝違え		
	18. 頭痛(孯		神経痛)	
	>>/m (>i	19. 顎関節症		
		20. 肋間神経痛		
	21.	睡眠障害(現代型不眠)		
		22. 高血圧・便秘		
		23. まとめ		
		24. 期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:中間試験は刺鍼動作や施に応じた治療が行えるか評価する。※ 試験対象とする。 含めた評価とする。(出席点:1コマに 授業中、課題以外の事を実施した場 評価基準:学則に基づき、A(80点以	《両試験ともに60点以上: 総合評価につい つき欠席は2点、遅刻/早 合は、1コマにつき10点源	を合格とし、60点未満の場合は再 ヽては出席率および授業態度を Ŀ退は1点減点とする。授業態度: は点とする。)	
使用テキスト	なし			
参考文献		なし		

科目名	伝統鍼灸実技		
担当教員	 	実務経験の有無及び経歴	
対象学年 	3年	開講学期	通年 ————————————————————————————————————
単位数	実技 3単位	時間数	90時間
科目の概要	伝統医学的臨床論で学習する弁証(症状)を中心に、東洋医学的な病態把握および施術 方法を学ぶ。		
科目の目標	東洋医学的な診察法(四診)を行り 東洋医学的な診察法(四診)を行り	い、病態把握および治	療ができるようになる。
学習の到達目標	ペーパーペイシェント(模擬患者)の自覚症状および検査における所見から病態鑑別を 行い、根拠ある治療法を行えるようになる。		
学習方法・学習上の注意	基本である八綱弁証を踏まえ、患者の病態把握をする。施術においては道具の扱いに 注意し危険行為のないように、衛生的に行うこと。		
関連科目	伝統医学概論 I・Ⅱ、伝統医学臨床論		
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション(治療原則・治療計画)		
2~9	頭部顔面部の病証		
10~16	消化器系の病証		
17	婦人科系の病証		
18	泌尿器系の病証		
19~22	頸肩腕痛		
23~24	腰下肢痛		
25	復習		
26	中間試験		
27	評価点検・振り返り		
28~42	不定愁訴		
43	復習		
44	期末試験		
45	評価点検·復習		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験70%、小テスト10%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	東洋医学臨床論		
参考文献	なし		

<sup>※</sup>授業の進行状況により、内容を変更する場合もあります。

科目名	臨床実習前実技		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	四大疾患を中心に病態把握、鑑別診断、基本的な取穴を学習する。		
科目の目標	3学年で行う臨床実習に必要な基礎を習得する。		
学習の到達目標	1年次で学んだ基本技術を円滑に行える。四大疾患を中心に疾患の鑑別と病態把握を学習し、3 年次の臨床実習の現場に立つことができるようにする。		
学習方法・学習上の注意	二人一組となって検査法・刺鍼・施灸練習を行う。指示された以外の部位への刺鍼や治療行為は禁止とする。		
関連科目	鍼灸理論 経絡経穴概論 解剖学 臨床医学総論		
持参物	教科書(はりきゅう実技<基礎編>、経絡経穴概論)、鍼灸道具一式		
講義計画			
1	ガイダンス、肩関節痛について		
2			
3	肩関節痛 復習		
4	頸肩腕痛について		
5			
6	頸肩腕痛 復習		
7	腰下肢痛について		
8	腰下肢痛鑑別、治療		
9	カルテ・腰下肢痛復習		
10	膝関節痛について		
11	膝関節痛の鑑別、治療		
12	カルテ・膝関節痛 復習		
13	まとめ		
14	総復習		
15	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験60%、筆記試験30%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	はりきゅう実技〈基礎編〉(医道の日本社)		
参考文献	はりきゅう理論(医道の日本社)・経絡経穴概論(医道の日本社)		

科目名	臨床基礎実習 I		
			鍼灸師として臨床現場に従事
担当教員 	一	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実習 1単位	時間数	45 時間
科目の概要	臨床実習を行う前に、治療院の準備や運営、施術の流れ、施術後の道具の処理などを学ぶ。		
科目の目標	治療院の実際の現場で、施術を行う 学し、実践を行う。	前の準備から、施術後の	片付け等、施術者がやる内容を見
学習の到達目標	治療院で働く心構えや基本姿勢、基本的な動きができるようになる。		
学習方法・学習上の注意	身だしなみには十分注意する。		
関連科目	臨床基礎実習Ⅱ、臨床実習、実技		
持参物	筆記用具、iPad、実技服		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・身だしなみ・清掃業務		
2	受付業務		
3	電話応対		
4~5	ロールプレイ		
6	ゴミの分別、器具の消毒		
7	タオルワーク、枕ワーク		
8	助手としての動き		
9	ベッドメイク		
10	物理療法の機器の使い方		
11~20	ロールプレイ		
21~22	期末試験		
23	評価点検・復習		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未 満)とする。		
使用テキスト	なし		
参考文献	実践ビジネスマナー		_

科目名	臨床基礎実習Ⅱ		
担当教員	岩村英明	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	実習 1単位	時間数	45時間
科目の概要	治療院の実際の現場で、患者応対や	接遇などについて学ぶ。	
科目の目標	基本的な接遇やマナーを身に着け、3年次の臨床実習で患者の状況を把握しながら細かな配慮が 行えるようにする。		
学習の到達目標	医療現場で求められる態度や患者に対する配慮を身につける。     適切な態度で患者から最低限必要な情報を質問することができるようになる。     患者に不快感を与えることなく触診をすることができるようになる。     触察により患者の状態を正確に捉えることができるようになる。		
学習方法・学習上の注意	髪や爪など、身だしなみには十分注意を払う。		
関連科目	臨床基礎実習 I、臨床実習、鍼灸実技、手技実技、 体表観察、現代鍼灸検査実技、伝統鍼灸検査実技		
持参物	筆記用具、クリップボード		
講義計画	講義内容		
1~11	鍼灸臨床における医療面接の実際 ・患者を迎え入れる前の準備 ・医療面接の導入 ・医療面接のはじめかたと対話の実際 ・面接に必要な態度と技法 ・ロールプレイ		
12~13	中間実技試験		
14~21	触診 ・触診の基本 ・筋肉、骨の触診 ・皮膚の陥凹探し ・ロールプレイ		
22~23	期末実技試験		
成績評価の方法と基準	実技試験結果(80%)と、日常の学習態度(身だしなみや出欠状況など)(20%)で評価を行う。学 則でいうD評価(60点未満)の者には補習の後再度実技試験を行う。		
使用テキスト			
参考文献	鍼灸臨床における医療面接(医道の日本社) マンガで身につく! 治療家のための医療面接(医道の日本社) 治療家の手の作り方一反応論・触診学試論ー(六然社)		

科目名	臨床実習		
担当教員	大槻健吾・角田朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	実習 2単位	時間数	90時間
科目の概要	校内の附属臨床施設を使用して行う。実際の患者様の施術を通して今まで学習してきた全ての知識や技術の総まとめを行う。		
科目の目標	基本的臨床能力としての、知識・技能	・態度・習慣を身につける	<b>5</b> .
学習の到達目標	1. 患者に対し、受付や誘導など適切な対応が出来るようになる。 2. 患者に対し、適切に医療面接を行うことが出来るようになる。 3. 患者に対し、必要と思われる検査を適切に実施することが出来るようになる。 4. 医療面接や検査で得た情報から、病態把握や治療方針をたてることが出来るようになる。		
学習方法・学習上の注意	1. 臨床実習は臨床の現場であるため、毎回の実習での態度は学生としての評価のみではなく、 鍼灸業界全体に関わる重要なものであること絶対に忘れないこと。初めて治療院に訪れる患者も 多く、この実習での施術者や学生の態度が鍼灸そのもののイメージになることを常に意識すること。 と。 2. 実習中、指導教員の指示に従うことは当然のことだが、分からないことを分からないままにせず、必ず指示を聞いて行動すること。 3. 附属治療院で見聞きした患者の個人情報は口外しないこと。また、ソーシャルネットワーク上 (ブログ・ツイッター・LINE等)にも絶対に出さないこと。		
関連科目	解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論、鍼灸実技、応用実技		
持参物	筆記用具、クリップボード、臨床実習ノート		
講義計画	講義内容		
1~2	オリエンテーション		
3~42	実習		
44~45	期末評価		
成績評価の方法と基準	評価方法:課題提出50%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20%、 期末評価・外部評価30% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト			
参考文献			